大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

＊特集
学術書の復刊プロジェクト
――第二七回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー

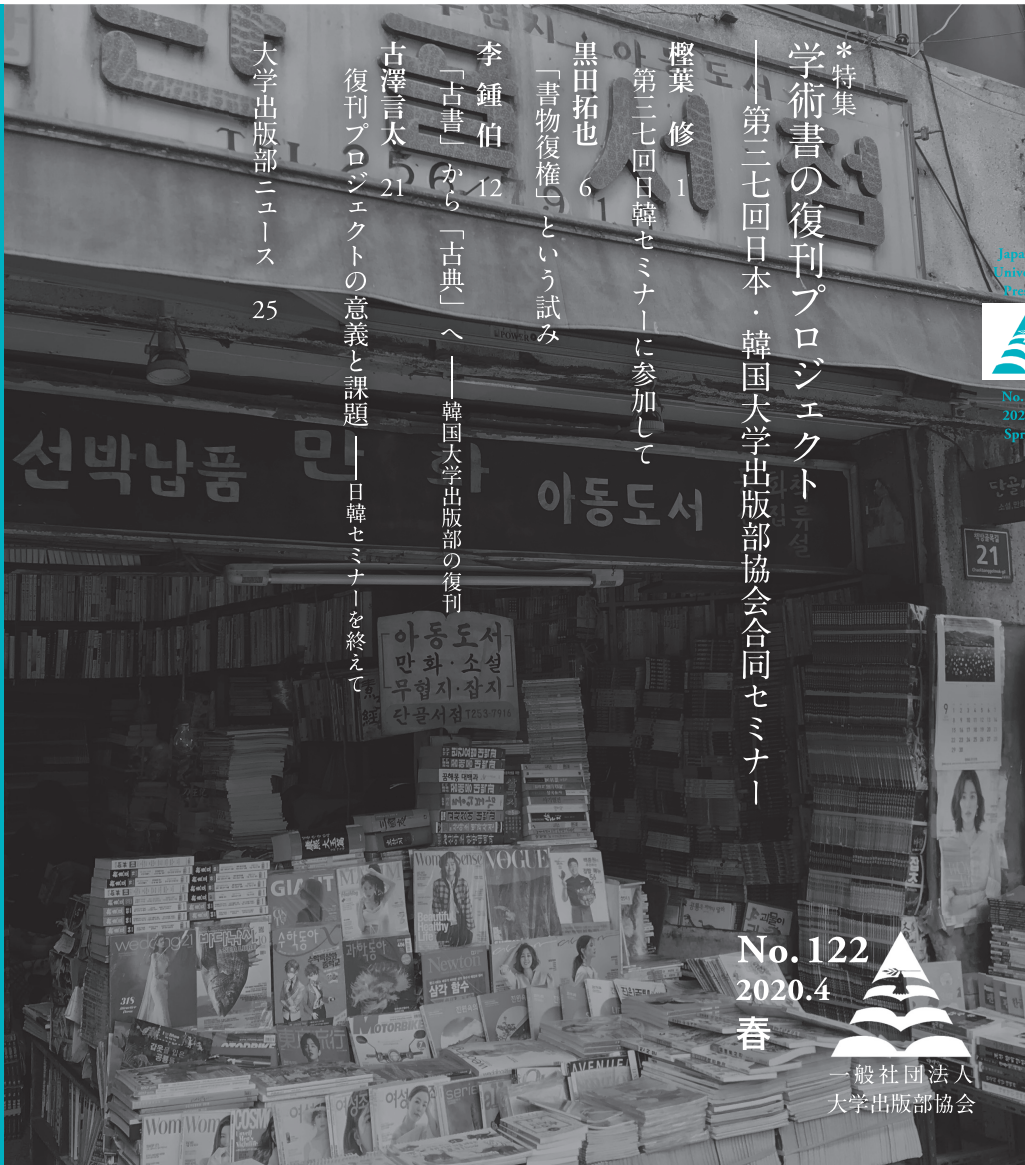
樫葉　修　1
第二七回日韓セミナーに参加して

黒田拓也　6
「書物復権」という試み

李　鍾伯　12
「古書」から「古典」へ――韓国大学出版部の復刊

古澤言太　21
復刊プロジェクトの意義と課題――日韓セミナーを終えて

大学出版部ニュース　25



No. 122
2020.4
春

一般社団法人
大学出版部協会

THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

大学出版部協会　新刊ご案内

ブックレット第4弾

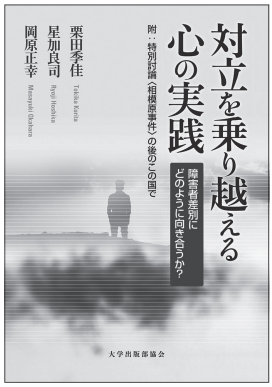
対立を乗り越える心の実践

障害者差別にどのように向き合うか？

栗田季佳・星加良司・岡原正幸

大勢の障害者の命が奪われた〈相模原事件〉を起こす影は，私たちの内にある．制度や「ねばならない」的教導では，差別はなくならない．「潜在化する偏見」を炙りだし，その原因となる心のメカニズムと社会的背景にまで遡って考察することで，差別解消への糸口を考える．

［発行：大学出版部協会／発売：東京大学出版会］



ISBN978-4-13-003153-0　2017年2月刊行
A5判／88頁／本体1,000円＋税

主要目次

第１章　見えない偏見
障害者を取り巻く問題に現れる心の動き　（栗田季佳）

第２章　バリアフリーという挑戦
「社会を変える」ことは可能か　（星加良司）

第３章　生の問題として〈対立を乗り越える〉を考える　（岡原正幸）

第４章　討論
対立を乗り越える学問の挑戦　（栗田季佳・星加良司・岡原正幸）

第５章　特別討論〈相模原事件〉の後のこの国で
有事モード下の差別と偏見

特集＊学術書の復刊プロジェクト

第三七回日韓セミナーに参加して

樫葉　修（関西大学出版部）

二〇一九年一〇月一六日（水）から一八日（金）にかけて「第三七回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー」が韓国・釜山で開催された。日本から程近い港湾都市である。本セミナーは、昨年は福岡市、一昨年は韓国・済州島で開かれており、ここのところ海峡を往復している。

今回の会場は釜山市・影島にあるバリューホテル釜山。由来ある橋で陸地とつながった島の波止場近くに立地する高層ホテルである。

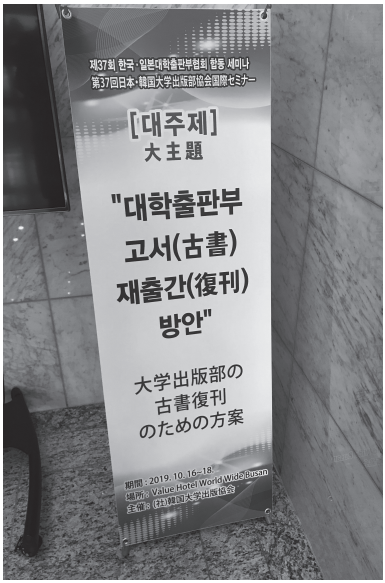
日本からの参加者は、黒田拓也（本協会理事長・東京大学出版会）、古澤言太（同副理事長・九州大学出版会）、古川真（同事務局長・法政大学出版局）、橋元博樹（東京大学出版会）、鈴木哲也・大橋裕和（京都大学学術出版会）、中井一貴・村上文（慶應義塾大学出版会）、大岩昌子（名古屋外国語大学出版会）、樫葉修・坂田優志（関西大学出版部）（敬称略）の一一名。韓国からは李鍾伯（イジョンベク）（韓国大学出版協会副理事長・嶺南大学校出版部）、崔相根（チェサングン）（同国際部会長・啓明大学校出版部）、申善皓（シンソンホ）（同事業部長・韓国外国語大学校知識出版CONTENTS院）（敬称略）ら四四名の方が参加された。

まずこの誌面をお借りして、ホスト側である韓国大学出版協会の皆様が示してくださった親愛の情と周到な準備に対し、心からお礼を申し上げておきたい。

参加に至った経緯

筆者は関西大学の事務職員である。本学出版部は大学組織の一部門であるため、広報課から出版部へ、または出版部から入試センターへといった部局間の人事異動が行われる。筆者も三年前に教務センターから出版部へ異動してきた。

このセミナーには異動直後の二〇一七年から三年連続して参加している。初参加したときから、本セミナーを運営



会場入口に掲げられたセミナーの案内表示

してこられた方々の熱意に感じ入るとともに、本セミナーが各出版部の母体となる大学へ果たしている役割の重要さをかみしめている。

大学は、いまグローバル化、少子高齢化など社会の激しい変化に直面している。外国の大学との交流活動では、以前からあった交換留学や共同研究だけでなく、共同授業も行われている。このような活動の企画や支援も教職員の業務の一つとなっているため、このセミナーを韓国の大学のいまを知る絶好の機会と捉えた。

初めて参加したときから気づいていたことだが、韓国大学出版協会の方は大学教職員が多い。セミナー会場で配布された参加者名簿のメールアドレスに着目したところ、日本からは参加者一一名のうち三名がアカデミックドメイン（ac.jp）だったが、韓国側は四四名のうち二九名と六割以上が同じドメイン（ac.kr）を所持していた。筆者は、同じような組織体系の出版部が、どのように大学へ貢献しているのか知見を得たいという関心をもっている。

また、三七年も活動が続いている理由については、第五回日韓大学出版合同セミナー報告（石井、『大学出版』第三号、一九八七年）で、「もっぱらソウル大学出版部の李恒部長（当時の韓国大学出版部協会会長）の熱意によって定着し、（略）、日本の現場中心主義に注目し、あえて実務者レベルの交流を提唱された」と記されていることや、私たち大学出版部協会が設立当初から「外国の大学出版部および学術団体との連絡」（大学出版部協会規約第四条第三号、一九六三年制定）を推進してきたことから、諸先輩方の熱意や見識はもとより、負担が一方に偏らない互恵的な運営がされてきたことも大きな要因と考えている。

事業が長続きする要素は大学も同じで、着眼点、財政、熱意、体制がそろって活動が継続できる。しかし、いまの大学はそれがなかなか難しい。その点で大学出版部協会が長年にわたってこのようなグローバルな活動をしていることをもって、それぞれの母体となる大学へ大きな貢献を果たしているといってよい。また、ここで韓国大学出版協会の方々とともに業務の研修を受け、交流を深めることもスタッフ・ディベロップメント（SD）の一環といえる。

このような考えで今回は本学から二名が参加した。それ

では日を追って今回のセミナーを振り返りたい。

二〇一九年一〇月一六日（水）

日本側はそれぞれの最寄り空港から韓国・金海空港へ向かう。折しも徴用工問題をめぐり日韓関係が緊張して両国を結ぶ飛行機便が日増しに減少していた頃で、関西地方から参加した京都大学学術出版会の両名は前日に釜山入り。私たちは伊丹空港から成田を経て釜山へ向かうことになった。

セミナー会場の様子（2019年10月16日）

金海空港には一三時を少し過ぎて到着。前泊の鈴木氏、大橋氏、午前着の古澤氏とそろい、韓国の崔相根国際部長と申善皓事業部長に出迎えていただいた。タクシーに分乗して会場へ向かう。韓国大学出版協会の方から日韓両国語で準備された資料集を受け取り、参加者登録する。

その後、一五時から日韓セミナーが始まった。韓国大学出版協会は李鍾伯副理事長が白三均（ペクサムキュン）理事長（韓国放送通信大学校出版文化院）のご挨拶を代読、日本側は黒田拓也理事長が答礼の挨拶を述べ、恒例の記念品交換を行った。

今回のセミナーでは、「大学出版部の古書復刊のための方策」が主題として設定されていた。まず韓国の李鍾伯氏から、「『古書』から『古典』へ――韓国大学出版部の復刊」（本誌一二―二〇頁）と題して韓国における注目すべき事例や活性化に向けた提言が発表された。次いで日本側から黒田拓也氏が、「『書物復権』という試み」（本誌六―一一頁）のタイトルで、これまでの取り組みに基づく手順や課題が発表された。

続けて金廷奎（キムジョンキュ）氏（韓国放送通信大学校出版文化院）と古川真氏が登壇されたのち、参加者、登壇者、発表者の間で活発な質疑応答があり、予定を三〇分ほど超過した一七時半に記念撮影ののち初日の全体会を終了した。

この全体会では、日本と韓国における書物復刊の実践例、必要なノウハウ、解決すべき問題点が惜しみなく提示され、貴重な情報を交換することができた。さらに価値ある書物

を長く伝えていくことへの情熱を共有できた。

また休憩時間には、廊下に展示された韓国で製本に使われている用紙やカラー見本に触れ、微妙な趣向の違いを認識することができた。

一八時からは日本側・韓国側の代表者による代表者会議が行われた。この間に大岩氏が到着し、日本側は予定どおり全員がそろったことになる。

その後、一九時を過ぎて、ホテル二四階のレストランで歓迎晩餐会が行われた。各協会からの参加者が紹介されて乾杯が始まり、ともに窓から夜景に彩られた釜山の街、山、港を見ながら食事をして、親睦と交流を深めた。この席において中井氏、村上氏、大橋氏、坂田氏の若手四名が、韓国大学出版協会の同世代参加者と打ち解けて、友好的な関係を結んでいたことを特筆しておきたい。若い世代が交流する様子から、この日韓セミナーがこれからも持続して開催されることが強く期待できた。

二〇一九年一〇月一七日（木）

二日目は、九時からジャイヌリ経営研究院の徐珍榮（ソジンヨン）院長を迎えた人文学特講「古典から道を探る」が行われた。論語の教えを引いて幸せに生きる方法を伝えておられ、ラジオのレギュラー番組のほか、企業や軍隊でも数多く講演されているという。今回、両国の大学出版部協会のため、多忙にもかかわらず早朝にソウルをたち、釜山へ駆け付けてくださった。

一一時からはエクスカーションとなり、二台のバスに分乗して海東龍宮寺（ヘドンヨングンサ）へ向かった。海岸の崖と岩場に立地する観音聖地であり、諸国から参詣する善男善女でにぎわっている。ありがたくご本尊の観音菩薩をはじめ諸仏へお参りさせていただいた。

昼食はバスで移動して地元の有名店プンウォンジャンへ向かう。韓国側の参加者と交流しつつ、韓国らしいお皿に盛りつけられた多彩な料理を味わった。

そののち、釜山の市街へ戻り、古書店が立ち並ぶ「宝水（ポス）洞本屋通（ドンチェッパンコルモッ）」を見学する。あたり一帯が古書店で占められている。狭い通りの間口の狭い店舗には古書がうずたかく積み上げられていた。交差する通りは釜山らしく急な坂道となっており、本への関心と街の情緒に魅了される思い出深い訪問となった。

再びバスに乗車して太宗臺（テジョンデ）へ移動する。ここも断崖絶壁の景勝地だが、岩場を下って遊覧船に乗り込み、海から奇岩奇石を望んだ。自然の営みに感服するだけでなく、沖合で入港を待つ大きな船とさらにその向こうに浮かぶ対馬を見て、釜山の港湾がたしかに北東アジアの物流ハブとなっていることを実感した。

遊覧船は一時間ほどで船着き場に戻り、夕暮れ時の公園を散策してからバスで交流晩餐会の会場へ向かう。再び李鍾伯副理事長、黒田拓也理事長から挨拶があり、やはり名

物の海産物をともに賞味しつつ交流を重ねる。

晩餐会を二〇時に終えた後、釜山でいちばん夜景がきれいに見えるという海雲台へ移動するが、目的地付近でバスの停車位置が定まらず、あとで聞くと運転手のお勧めスポットへ予定地を変更したということだった。そこはふ頭公園で、お勧めどおりの絶景が見られ、水路を挟んで林立する高層ビルから放たれる光を参加者めいめいが写真に収めて思い出を共有することができた。

一時間ほど公園で過ごしたのちにホテルへ戻り、二日目を終える。

二〇一九年一〇月一八日（金）

セミナー最後の日、九時にホテルの玄関に集まってくださった韓国大学出版協会の皆様と一年後の再開を約束しつつ、バスで釜山市内の周遊に向かい、公式行事をすべて終了した。

二〇一九年一〇月一九日（土）

帰国日。一四時一〇分に金海空港をたち、成田を経由して、一九時五〇分に伊丹空港へ到着した。次に韓国で開催されるときには直行便があることを願っている。

釜山の古書街「宝水洞本屋通」の案内パネル（上）と古書店内（下）

特集＊学術書の復刊プロジェクト

「書物復権」という試み

黒田拓也（日本大学出版部協会 理事長／東京大学出版会）

はじめに

読者が書店やインターネット書店で本に出会うとき、その本は読者にとっては未知の、そして手にとって初めて経験することになる対象です。刊行されたばかりの新刊であれ、刊行から数年経った既刊書であれ、さらに旧い時代の書籍の復刻であれ、初めて出会う本は、読者にとってつねに「新しい」存在です。

出版社からすると、新刊として本を世に送り出したあと、長年にわたって次々と新しい読者を獲得し続けてくれる本が利益の源泉です。多くの読者が引き寄せられる、強い磁場を持った存在であることが理想です。

われわれ大学出版部から刊行される本のすべてがそうした幸福な循環を生み出せればよいのですが、残念ながら現実はそううまくは行くことばかりではありません。日本では、現在、年間八万点にもおよぶ新刊が刊行される中、本来長く寿命を保ってほしい本が埋もれ、短い時間で読者の視界から消えてしまいます。しかし、私たちが著者とともに信念を持って生み出した本を、厳しい現実に流されるがまま、読者から「みえないもの」にしておいてよいのでしょうか。いいえ、そのような状況は少しずつでも改善していくしかないのです。

今日ここで報告させていただくのは、一つは、日本の専門・学術出版社によって、一九九七年から現在まで二二年にもわたって継続している、本を読者に「みえるもの」にする努力、「書物復権」という試みについてです。

もう一つは、これは日本の出版が生み出した大きな成果でもある「文庫」という形態、なかでも「学術文庫」「学芸文庫」と言われるものの役割・意義についてです。

この主に二つのテーマを通じて、「古書」の「復刊」に

ついて考えてみたいと思います。

「書物復権」という試み

まずは簡単に「書物復権」について説明しておきましょう。

このプロジェクトは一九九六年、岩波書店・東京大学出版会・法政大学出版局・みすず書房という、専門・学術書を中心に刊行している四社の共同で開始されました（二〇一九年は一一社で行っています）。

「一九九六年」という年は、日本の出版市場全体の売上がピークをむかえた年でもあります。しかし、われわれ専門・学術出版社がそこでみた現実は、次第に既刊書が売れなくなり新刊書への売上依存度が徐々に高まっていく状況でした。初版部数を売り切った先の需要が見通せず、増刷をすることができずに、そのまま「品切れ」の状態になってしまう本が増えてきた時期でもあります。

そのような状況のなか、上記に挙げた四社が共同して良書復刊のための具体的な構想を練り、一年をかけて準備し、一九九七年六月に四社合計二三点を一斉に復刊したのです。

「書物復権」の具体策

「書物復権」は、まず参加出版社の中での復刊候補作の選定からスタートします。各出版社の「品切れ本」（市場ではしばらく流通していない書物）の中から、刊行からしばらくの間は増刷もされ読者や研究者等からすでに高い評価を得ているもの、過去に出版した時点よりも現時点においてより必要とされる内容だと考えられるもの等々、いくつかの基準をもとに復刊候補作のリストを作成します。これが第一段階です。

第二段階では、このリストを共同のパンフレットにまとめ、それを、各出版社が持つ顧客リストへの郵送や、発行するＰＲ誌への同封、書店を通じての配布等を行い、多くの読者に復刊候補作を示し、そしてどの書物を復刊してもらいたいか、読者からのリクエストを募ります（現在では

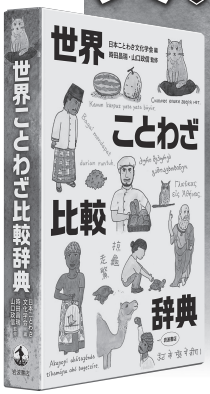
◎日本と世界のことわざを集め比較する辞典

世界ことわざ比較辞典

〈内容案内進呈〉

日本ことわざ文化学会 編
時田昌瑞・山口政信 監修

現代日本で常用されることわざ三〇〇を見出しに、世界各地二五の言語と地域からことわざを集め比較するという、世界初の辞典。B6判・本体3400円



岩波書店
東京・千代田・一ツ橋
（定価は表示価格＋税）
http://www.iwanami.co.jp/

もちろんｗｅｂを利用したリクエストも受け付けています）。

読者からのリクエストでは具体的なコメントが多数寄せられます。こうしたプロジェクトを応援するコメントもあれば、こういう書目を復刊してもらいたいという提案もあります。これは、われわれ出版社にとってはとても嬉しいことです。

読者からのリクエスト結果をふまえ、復刊対象となる候補書目を絞り、著者への連絡や復刊する部数や価格といった経済面での検討を行い、各社が復刊候補リストの中から五～六点の復刊書目を決定します。これが第三段階です。

そして第四段階で、各社が決めた復刊書目、それぞれの書物の価格や内容説明を明示したものをまとめた第二弾のパンフレットを作成し、それを第一弾のパンフレットの時と同様に広く読者に案内し、また書店からは各書目への注文を取ります。これらをふまえて、復刊書目の製作部数や価格を正式に決めていきます。

ここで復刊部数を決定するための前提条件に触れておきましょう。

「書物復権」はその開始の時から、全国大学生活共同組合連合会書籍事業部や書店の協力を得て、復刊書目を揃えた書店店頭でのブックフェアが展開されています。「書物復権」参加出版社の中に大手書店チェーンの一部門でもある紀伊國屋書店出版部がある関係で、全国に多くの店舗を持つ紀伊國屋書店の協力も得られています。紀伊國屋書店には大学図書館や公共図書館、さまざまな研究室への販売を担う「営業部」もあり、その部門にも強い販売力があります。

こうした多様な流通チャネルが事前に用意されていることが「書物復権」の復刊事業の特徴です。これは最初に述べた、「本を読者にみえるものにする」という目的を実現するための工夫でもあります。こうして復刊書籍ができるだけ多くの流通チャネルに行き渡ることを前提に復刊部数が決定されます。ここでは、各社が単独で復刊を行うときには前提にすることができない有利な条件をつくり出しているのです。

第五段階、ついに刊行です。この時には「書物復権」参加出版社の復刊書目すべてが同時に配本・発売されます。例年五月中旬に刊行しています。そして、先に述べたような全国各地の書店で復刊書目がまとまったかたちで並べられ販売されるのです（インターネット書店も同様です）。

「書物復権」を支える努力

こうしたサイクルを二二年にわたって継続し、いま二三年目の準備がすでに始まっています。ただ、上記に紹介した取り組みを同じように続けただけでは、どうしても結果がじり貧になってしまいます。そうならないようにさまざまな工夫を付け加えていかなくてはなりません。

そうした工夫の一つとして、単に元々の書籍の形で出版

するのではなく、復刊する際、その復刊書目の著者に、いまこの書物を読む意味、あるいは、この間の研究動向の変化などを記述した新稿を加えてもらい、装丁も一新して「増補新装版」として「復刊」したりしています。こうすると、過去にその書目を読んだ・購入した読者に対しても新たな付加価値を提供できます。

さらに、いまの「書物復権」は本を復刊するだけのプロジェクトではありません。未来の専門書・学術書の読者を創り出すための試みも多数行ってきています。

プロジェクトが十年目を迎えた二〇〇六年には多くの講師を招いてのセミナーを複数開催し、また各社の編集者が書店や大学図書館に出向いて講演やセミナーを行い、一般読者や学生たちに本をつくることの面白さ、読むことの重要性などを訴えました。

また最近では、大学生に対して書物の面白さ、読むことの意味を考えてもらうために、いくつかの大学と協力して、参加出版社の編集者がパネリストになるシンポジウムを開催したりしています。

これらの取り組みにおいては、過去の書籍を蘇らせることと次世代の読者を生み出す努力は一体となって行わなくてはならないという強い意識が働いているのです。

「書物復権」の課題

ここまで「書物復権」というプロジェクトの具体的な取り組みを述べてきましたが、もちろん良い結果ばかりではなく課題はあります。

一つは、このプロジェクト開始当初と比較して、現在の日本の出版市場はさらに縮小し、復刊した書籍の販売実績も減少してきていることが挙げられます。こうした変化を自覚しているからこそ、前項（「書物復権」を支える努力）で述べた工夫を積み重ねているのですが、負の環境変化は残念ながら止まってはいません。

二つめに、「書物復権」はこれまで「書物」という形にこだわってきましたが、電子書籍を提供するプラットフォ

好評発売中

◉農民自らが身をもって体験した社会変革の歴史を語る
李 恩民 著
中国華北農民の生活誌
A5判・二八〇頁・本体四二〇〇円＋税

◉「戦争のできる国」へと前のめりになる権力への叛意の文学
綾目広治 著
述志と叛意——日本近代文学から見る現代社会
四六変・三五二頁・本体三二〇〇円＋税

◉ジモトで「夢をみる」ことのできる地域社会の条件を考える
川端浩平 著
ジモトを歩く——身近な世界のエスノグラフィ
四六判・三二〇頁・本体二八〇〇円＋税

◉地域・家族・職場という社会集団の衰退と「危うい個人」
高橋英博 著
社会と個人——どこから そして いずこへ
A5判・二四〇頁・本体三四〇〇円＋税

御茶の水書房
〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751
http://rr2.ochanomizushobo.co.jp/

ームの普及もあって、「読者にみえる」ものにするための一つの有効な手段として「電子書籍」での展開もあわせて拡大していく必要はあるでしょう。

「文庫」という形態での「復刊」

韓国大学出版協会の皆さまの中にも「岩波文庫」という名前を聞いたことのある方は多いと思います。日本における「文庫」という形態のさきがけです。

「岩波文庫」はこれまで、日本・西洋・東洋・その他多くの地域の「古典」的著作を安価な形で多くの読者に提供してきました。日本が誇る知的基盤の一つといってもいいでしょう。

その岩波文庫に代表される日本の文庫には、「講談社学術文庫」や「ちくま学芸文庫」「岩波現代文庫」といったものがあります。そこには、比較的新しい年代に刊行されたものも含む、すでに定評ある専門・学術的な作品が多数収録されています。

そこには、例えば三〇年前に東京大学出版会から刊行された書籍や二〇年前に法政大学出版局から刊行された書籍などがあり、本来であれば、東京大学出版会や法政大学出版局が「復刊」してもよいような名著が含まれています。「文庫」に収録されるという形で、専門的・学術的書籍、もしくは大学での定評ある教科書・入門書といったものが「復刊」されているのです。われわれが持つバックリストの中から名著と言われるものが「文庫」として新たな形で読者に提供されていくことになります。

「文庫」ですので、まず安価ですし、日本全国の大きな書店で読者に目に触れる機会が増えます。先に名前を挙げた「講談社学術文庫」や「ちくま学芸文庫」「岩波現代文庫」といったレーベルはブランド価値も高く、そこに作品が収録されることは著者も喜びます。専門・学術的な内容の「文庫」は、日本の広範な知的基盤を支える一つのシステムであることは間違いなく、私も含め多くの読者が恩恵を得ています。

しかし、昨今は文庫にしたからといって、必ずしも多くの読者により買われるような状況でもなくなってきました。本来、製作部数が多く、またその形式からも製作原価を抑えることで成り立っていた文庫も、製作部数が減少することによってその価格も普通の単行本とあまり変わらなくなってきました。「文庫」の仕組みも、日本の出版市場が縮小を続ける中で真っ先に苦況に立たされています。そうした状況においては、さまざまな努力を傾注してきた「書物復権」というプロジェクトの意味をもう一度われわれ専門・学術出版社が捉え直し、日本の知的基盤の地平を狭くしてしまうことがないよう、「書物復権」プロジェクトから新たな付加価値を創り出して行く必要をいま改めて感じています。

おわりに

「新しいものを生み出すためには、過去を知ることが大切です」「今だからこそ、価値ある過去の情報を再提示し、その意味について考え、そこから新しいものを生み出すことがこの上なく大切なのではないだろうか。」（菅谷明子「書物復権に寄せて」（「書物復権」案内パンフレット、二〇〇四年第一号）より）

これは先に紹介した復刊書目を案内するパンフレットに掲載されたある著者の文章の中にあった言葉です。「出版」という営み、「読む」という営みは、絶えずこうした「過去」や「歴史」という「他者」との往還の中で培われていくものだと思います。

最後にもう一つ、パンフレットに掲載された著者の言葉を引いて、この拙い発表を閉じたいと思います。

「書物というのは、他者への想像力を培うための、唯一の、では決してないが、一つの重要な回路である。分かりづらい書物を「読む」（「書く」ではない！）ことは重要なのだ。なぜなら、他者は常に分かりづらいものだから。分かりやすい本は、よく売れるけれども、そこで人が出会うのは自分か、自分に似ているものだけである。そこで人が手に入れるのは、他者へと身を開いていく教養ではなく、どこか排他的ナルシシズムである。

書き手や作り手だけで、書物を復権させることはできない。他者へと身を開いていく勇気と想像力をもった読者が、そこにいなければならないのだと私は思う。」（市野川容孝「書物復権に寄せて」（「書物復権」案内パンフレット、二〇〇八年第一号）より）

詳細・正確な定評ある伝記シリーズ
人物叢書
通巻300冊　日本歴史学会編集
300 徳川家康　藤井譲治著　2400円
301 ルイス・フロイス　五野井隆史著　2300円
302 二条良基　小川剛生著　2400円
303 徳川秀忠　山本博文著　2200円
304 清和天皇　神谷正昌著　2000円
【別冊】人とことば　日本歴史学会編　2100円
【通巻300冊記念出版】

鎌倉時代論　五味文彦著　3200円
京と鎌倉、「二つの王権」から見た鎌倉時代の通史を平易に叙述。

日本史を学ぶための図書館活用術　辞典・史料・データベース
浜田久美子著　レポート作成やレファレンスに必備！　1800円

平泉の文化史　全3巻
刊行開始　菅野成寛監修
世界文化遺産に登録された魅力に迫る。
1 平泉を掘る
寺院庭園・柳之御所・平泉遺跡群
及川　司編　（第1回）2600円
〈続刊〉2 平泉の仏教史―歴史・仏教・建築―…菅野成寛編／3 中尊寺の仏教美術―彫刻・絵画・工芸―…浅井和春・長岡龍作編

新しい古代史へ　全3巻
平川　南著　各2500円
文字は何を語るのか？　今に生きつづける列島の古代文化。
1 地域に生きる人びと　甲斐国と古代国家
2 文字文化のひろがり　東国・甲斐からよむ
3 交通・情報となりわい　甲斐がつないだ道と馬

吉川弘文館
〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151／価格は税別

「古書」から「古典」へ——韓国大学出版部の復刊

李 鍾 伯（韓国大学出版協会 副理事長／嶺南大学出版部）

はじめに

ローマの修辞学者で詩人であるテレンティアヌスは「すべての本にはそれなりに（固有の）運命がある」（Habent sua fata libelli）という。運命は決まっているのではなく、どのように作るかによって変わるように本も同様であるといえる。編集者が原石のような著者の原稿に活気を吹き込み、デザイン、印刷、製本、後加工といった過程によって多くの人の汗と真心が入ることで一冊の本となって生命力を持つようになる。このようにして世間に出た本は読者と出会い、長い間広く読まれる古典になったりするが、大半の本は絶版になる運命を迎えることになる。

大学出版部は、学術の深さを通じて教養の広さを志向しなければならないため、息の長い作品を持続的に出版せざるを得ない。学術書の場合、長い時間と努力をかけたにもかかわらず、少量出版と少数の読者層という限界のため、出版と同時に絶版という運命を持つことになるのが現実である。

韓国における大学出版部は、一九四九年梨花（イファ）女子大学、一九五六年高麗大学、一九六二年ソウル大学での設立をはじめとして、一九七〇年代に本格的に多くの大学出版部が創設された。こう見ると平均四〇年以上の歴史を持っている。韓国出版界でこの程度の歴史を持つ出版社がそう多くないことを考慮すると、大学出版部が厳しい環境の中でも重要な役割を果たしてきたことが分かる。二〇一八年に刊行された『韓国大学出版国際交流史』によると、一九八一年から二〇一八年まで現在五八校の会員大学で出版された新刊発行数は二万五八四三点にのぼる。そのうち、絶版とされた作品が何点なのかは統計として出されたことがないが、おそらく相当な量であるものと見られる。少なくとも

一〇年以上絶版となって古書になった本は、テキストが持つ時間的な限界、新しい研究成果、限定された読者層、時代の流れとの不一致など、様々な理由で読者たちと出会っていない。

本は人間の歴史とともにある思惟の集積物である。人間の記憶を拡張させながら、本は批判と省察を土台に絶えることなく思惟を盛り込んできた。現在の本は、絶版とされた本が積み重ねた記録から出た結果物とも見られる。したがって絶版図書も、進展してきたこれまでの成果を補完し、短所を修正し、その本が言おうとする意味を再び証明できるなら、復刊の価値がある。

大学出版部から復刊本出版の方向

ここ数年前から韓国の出版界で「つながり」と「発見」というキーワードが話題になっている。ハイパーリンクが可能なネットワークの時代には、紙の本でなくても、デジタル機器を利用してプラットフォームに接続さえすれば、いくらでも望む知識を得ることができる。読者が情報を探すために本屋や図書館に行かなくてもいい。本でなくとも十分に読み応えがあるので、大学出版部の図書は読者に「発見」されることがはるかに難しくなった。大学出版部でもいかに効果的に読者との「つながり」を持たせ、適切に「発見」させるかについて、さらに深い模索と多様な試みが必要である。

総合出版を目指さざるを得ない大半の大学出版部の場合、「つながり」を重視すべきメディアは多く、「発見」すべき読者層の幅は非常に広い。しかし、専門的な人材が不足しているため、積極的な企画やマーケティングによる成果を出すのが容易ではない構造となっている。このような状況を克服しようとする方法の一つとして、大学出版部独自のアイデンティティを確立し、自分たちだけのブランド価値を作るべきだという主張はかなり前から提起されてきた。

米国の大学出版部が設立された際も、大学出版部の本は、同じ分野が集約されている時最も効果を発揮すると関係者

スミス・マルクス・ケインズ
よみがえる危機の処方箋
ヘルマン　資本主義の変容と共に経済学を刷新した三人の思想とは。新たな段階に入る資本主義への処方箋。**鈴木 直 訳 ¥3600**

暴落［全2巻］
金融危機は世界をどう変えたのか
トゥーズ　リーマンショックから10余年。未曾有の危機が世界秩序をいかに再編成したかを描く決定版。**江口・月沢訳 各¥4500**

良き統治
大統領制化する民主主義
ロザンヴァロン　いま民主主義は機能不全を起こしている。統治の歴史から新たな民主主義の展望を開く。**古城 毅 他訳 ¥5500**

スマートマシンはこうして思考する
ジェリッシュ　人工知能はいかに「考える」のか？ 思考の設計を解剖。AIバブルにもう煽られない。**依田訳　栗原解説 ¥3600**

漁業と国境
濱田武士・佐々木貴文　領土問題が固定化し、外国漁船が近海で操業する今、海の縄張り争いの解決策と漁業の未来。 **¥3600**

文明史から見たトルコ革命
ハーニオール　イスラム圏初の近代西洋理念に則る建国は成功したか。西洋と東洋の狭間から歴史を読む。**新井政美監訳 ¥4000**

ハンセン病療養所と自治の歴史
松岡弘之　病者の隔離と排除を目的とした施設は、連帯と解放の拠点でもあった。瀬戸内で、当事者たちの百年の精神史。**¥5400**

東京文京本郷2丁目20-7　**みすず書房**
tel. 3814-0131 fax 3818-6435（税別）
www.msz.co.jp

は話している。古書（絶版図書）の復刊本出版でも、このような観点の延長線で考えなければならない。大学出版部の「競争力」を育てることができる分野が何であり、どのようなコンテンツを発掘し補完すれば著者と読者に「影響力」を発揮していくことができるのか、その模索が復刊の際の出発点にならなければならない。

大学出版部の出版物が一般読者と該当学問分野の専門家に及ぼす「影響力」の大きさは、出版企画とマーケティングの範囲による。復刊書出版の際、出版物の点数や売上高、収益の観点だけでなく、大学出版部のアイデンティティ確立やブランドイメージの形成、コンテンツ拡張に及ぼす影響についても、非常に綿密に検討すべきである。ＭＩＴ出版局長だったケロール Ｇ．ボーウィン氏は、「我々は微生物学、生物理学、生化学分野に関心がある」と述べ、「もしラテンアメリカ文学の良き原稿が入手されれば、設立されたカリフォルニアやテキサス大学出版部に紹介する」と明らかにした。出版は価値志向的な産業であり、大学出版部はなおさらである。復刊書の出版の際にも、出版部の志向する価値と方向に合ったコンテンツの選択と集中が必要である。

マーケティングの父と呼ばれるフィリップ・コトラー（Phillip Kotler）は、『マーケット３・０』で市場を以下のように定義している。産業革命以降、機械化と自動化により大量生産された〝製品〟中心のマーケットが１・０であり、マーケット２・０は、消費者と市場がさらに近づいて多品種少量生産が主流を成している〝顧客〟中心の市場である。そしてマーケット３・０は、感性やエコ・ソーシャル・ネットワークに代弁される〝価値〟が中心となる市場である。これを出版に適用するならば、マーケット１・０は著者、マーケット２・０は読者中心であると理解できる。マーケット３・０は、出版社や出版した本が持つ〝価値〟になるだろう。復刊出版もブランドが持つ「価値」を高めることに焦点を合わせてこそ、大学出版部の活路の模索に貢献できるといえる。

復刊出版の際の検討事項

「眼目」とは見えない深さを見ることだという。古いテキストから新しい事実を読み取る力、これを通じて現代の時代の読者に知的刺激とインスピレーションを与える力の基礎が「眼目」である。復刊出版にもこのような「眼目」が必要である。単に初版本をそのまま印刷して出版するなら、すでに所蔵している本を図書館や読者が購入するはずがない。

デジタル機器の活用に長けた新世代の読者は、いつでも絶版とされた本を図書館から借りスキャンしてタブレットで読めばよい。「ホモスマートクス」と呼ばれる新人類は、毎日膨大な量の知識の読み書きを行っている。このような状況で、古いテキストをなぜ再び出版しようとするのか、

その理由を読者に明確に提示できないならば、絶版状態を維持した方がかえってましではないだろうか。

ウンベルト・エーコが、「この五百年間、本という物の形態には様々な変化があったかもしれないが、機能や構成システムには変化がない。本は車輪やハンマー、ハサミのようなものであり、一度発明されると、より良いものは発明できないものである。スプーンほどよいスプーンは発明できない」と指摘したように、本はそれ自体で古典である。旧い古典的な形態に過去のテキストだけを載せて表示デザインを変えるだけの復刊は、影印本のもう一つの形態に過ぎない。そのため、復刊には新刊の出版よりも多くの模索が求められる。

大学出版部の復刊プロジェクトは、このような意味で「古書」を「古典」にしていく戦略が必要である。大学出版部は、ベストセラーよりステディーセラーが重要であり、ステディーセラーがその分野において古典になるまで、持続的な改正を通じてコンテンツの深みと幅を加えていかなければならない。そのためには、テキストの絶え間ない革新、時代と学問の流れに歩調を合わせた再解釈、そしてそれらを読者の目線で行う編集、が欠かせない。

音楽の場合、楽譜は同じであっても演奏者や歌手、指揮者がどのようにその曲を変奏するかによって、かなり前に創作された作品が全く新しい作品に様変りするケースがしばしばある。復刊出版も同じことがいえる。時代の流れに歩調を合わせてどのように企画し、原稿を補完し、版面をデザインするかによって、初版とは全く異なる新しい作品として出版することができる。これがまさに「編集力」そのものである。

復刊の際にもう一つ積極的に検討すべきことは、原文を「生命力」を持つテキストで再構成することである。絶版の場合、新しい読者たちとの関係が途絶えたあと、相当な時間が経っているだけに、時宜にかなわない場合がある。言語は時代によって変わっておりSNSをはじめとするデジタルメディアの登場によって、語彙と表現は頻繁に変わ

藤原書店

大地よ！
アイヌの母神、宇梶静江自伝
宇梶静江　アイヌとして生き、アイヌの精神性を問うた女の一生。「古布絵の世界」カラー口絵8頁　2700円

消えゆくアラル海
再生に向けて
石田紀郎　湖面積が琵琶湖の100倍だったアラル海が、半世紀で琵琶湖10個分に縮小！　2900円

公共論の再構築
時間／空間／主体
中谷真憲・東郷和彦編　亀裂の広がる“公”と“私”をつなぐ、「公共」の可能性を検証！　3800円

中村桂子コレクション
いのち愛づる生命誌（全8巻）
2 つながる　生命誌の世界
生きものたちのつながりを、やさしく語る。［第4回配本］2900円

全著作〈森繁久彌コレクション〉
1 道――自 伝［解説］鹿島 茂
2 人――芸 談［解説］松岡正剛
3 情――世 相［解説］小川榮太郎
各巻550頁程度 全5巻 各2800円

◎ブルデュー社会学の集大成の完訳、遂に完結！
世界の悲惨
全3分冊　完結
ピエール・ブルデュー編
社会は、表立って表現されることのない苦しみであふれている――ブルーカラー労働者、農民、小店主、失業者、移民等への52本のインタビューを集成。　荒井文雄・櫻本陽一監訳　各4800円

月刊 機　B6変32頁　2月号　No.335
宇梶静江／中谷真憲／星原大輔／三砂ちづる／宝田明／米谷ふみ子／宮脇淳子／鎌田慧／石垣金星／加藤晴久／中西進 ほか
年間購読料2000円（送料込）　◎見本誌・ブックガイド呈　＊表示価格税抜
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
振替 00160-4-17013　TEL 03-5272-0301
ホームページhttp://www.fujiwara-shoten.co.jp/

っている。数十年前に出版された作品の場合、文章の構成やその仕組みが、最近とはかなり異なる。学術用語、文章、漢字語、外来語、あまり使わない用語は変更しなければならない。また、内容が専門的で読者が理解し難い文章はリライティングも求められる。このほかにも、何を補完すれば現在の読者に知的刺激を与えることができるかについて編集者が模索すれば、「生命力」を持つ復刊書ができる。

復刊の形態及び注目すべき復刊本の出版例

韓国社会のデジタル化に伴い、逆にアナログへの欲求が高まりつつあり、公共図書館の数は増加し、ここ数年、復刊が活発に行われている。二〇〇八年度に六四四館であった公共図書館の数が、二〇一八年に一〇九六館となり、最近一〇年間、爆発的に増加した。しかし、これらの図書館では、一九七〇年代～九〇年代に出版された本は所蔵していない場合が多く、復刊の需要が生じる要因ともなっている。

最近までの復刊の出版方式は、大きく三つに分かれる。まず、古い初版本をそのまま再現し、昔の本の味を生かす方法。次に、内容の補完と修正を通じて再編集し、新しい判型として披露する方式。そして、復刊をシリーズで企画する方式などである。参考に値する代表的な事例を挙げると、次のようになる。

『ルネサンス美術家評伝』、全六冊（学術）

ジョルジョ・バサリが著述した本であり、「ルネサンス美術史を集約した古典」と呼ばれる。イグンベ（一九一四～二〇〇七）朝鮮（チョソン）大学医学部教授が、一八年間の努力を傾けた末に一九八一年図書出版探求堂から翻訳出版した作品を、二〇一九年四月、ハンギル社が完全に新しい姿に変えて復刊した。計六冊三八九六ページに及ぶ大作として、ルネサンス芸術家二〇〇人余りの生涯と作品世界を盛り込んでおり、ルネサンス美術を正当に把握することができるオリジナリティ溢れる史料と評価されている。今回の復刊では、過去の原本のミスを修正して美術の専門家による監修と解説を加え、八〇〇カット余りのカラー図版を新たに取り入れた。「原著に解説を加え、図版まで詳細に組み込んで完訳したのは世界初」という。

『オルム旅人』（教養）

一九九五年に作家キム・ジョンチョルが済州島にある三三〇個のオルム（火山）を直接登って書いた作品であり、人文・歴史・自然・民俗・生態などの側面から済州島のすべてを描いている。本が出版されてから二〇日余りで著者は世を去った。その後絶版になっていたところ、二四年後の二〇一九年に図書出版ダ・ヴィンチから再び出版された。これは、事前にクラウドファンディングが行なわれ、ハードカバーの三冊の復刊に向け、一〇〇人から一万九千ウォ

ンの資金調達を目標にしたが、二三八人が呼応し目標を超過達成することになった。クラウドファンディングを通じて復刊を実証した事例として注目する必要がある。

有名詩人及び作家たちの作品集（文学）

二〇一五年「ソワダリ（牛と橋）」出版社から刊行された金素月（キミウォル）の初版本詩集『つつじの花』と尹東柱（ユンドンジュ）の詩集『空と風と星と詩』がベストセラーになってから、白皙（ペクソク）の詩集『鹿』、韓竜雲（ハンヨンウン）の詩集『君の沈黙』、金洙暎詩集『月の国のいたずら』など様々な初版本詩集が復刊された。これらの詩集は、初版出版当時の活字と装丁などをそのまま再現し、読者のノスタルジックな感性に訴えることで所蔵意欲を喚起している。このほかにも小説家金承鈺（キムスンオク）の随筆集『浮いた世の中に住む』、田榮澤（チョンヨンテク）の『田榮澤創作選集』、李潤基（イユンギ）の『天の文札』、趙廷来（チョジョンレ）の小説集『影の接木』、金周榮（キムジュヨン）の大河小説『客主』などの文学書も、最近復刊された。

このようなブームを追い風に、図書出版「コンヌンサラム（歩く人）」の復刊シリーズ『多詩』のほか、作家たちの処女詩集や二度目の詩集の再出版を企画した出版社「知識を作る知識」、再出版だけを専門とする「最側近の手練り」という出版社も誕生した。

大学出版部の復刊プロジェクトの活性化に向けた提言

大学出版部の復刊プロジェクトを活性化するために、協会レベルで支援し解決すべき課題を考えてみる。

① 絶版書目録集の製作および絶版図書特別展の開催

企画者や編集者が、自分が関心を持つ分野のどのような本が絶版となっているのかを知ってこそ、長期的な復刊企画を立てることができる。このため、協会レベルで、絶版図書目録集や絶版図書解題集を制作する方法もある。それが難しいならば、少なくとも分野別に絶版図書目録を整理し、協会会報や公式刊行物で定期的に紹介しなければならない。ソウル国際図書展の期間や研修会の期間に「絶版図

トマス・ジェファソン
権力の技法（上・下）
ジョン・ミーチャム　米国の民主主義を築いた第三代大統領の評伝。
森本奈理訳　◎各4800円

無の国の門
引き裂かれた祖国シリアへの旅
サマル・ヤズベク　記録を通じて内戦の過酷な現実と向き合う。
柳谷あゆみ訳　◎3200円

日本史からの問い
比較革命史への道
三谷 博　1968年駒場から歴史認識論争を経て、比較革命史へと至る維新史家の遍歴を辿る。　◎2500円

龍彦親王航海記
澁澤龍彦伝
礒崎純一　没後なお人気の高まる不世出の異才の生涯。［第71回読売文学賞（評論・伝記賞）受賞］　◎4000円

寺山修司の一九六〇年代
不可分の精神
堀江秀史　ジャンルを横断した寺山の行動原理とは。　◎6800円

アウステルリッツ
［新装版］
W・G・ゼーバルト　建築史家の主人公が語る暴力と権力の歴史。鈴木仁子訳
多和田葉子解説　◎3000円

白水社
東京都千代田区
神田小川町3-24
TEL 03-3291-7811
www.hakusuisha.co.jp
◎価格税別

書特別展」を開催し、関心を呼び起こしてもいいだろう。このような努力は、大学出版部のコンテンツを拡大し優れた企画図書の発掘に向けた出発点となるので、大学出版協会のレベルで積極的に行う必要がある。

② 分野別専門編集者養成

いくら良い古書があっても、これを発見したり、十分に活用できなかったりすれば、無用の長物である。復刊プロジェクトも、鑑識眼に秀でた編集者が企画し推進しなければならないだけに、歴史・哲学・文学・科学・芸術など分野別の専門編集者が必要である。分野別の学界動向と出版状況を地道に把握し、著者を発掘し、読者のニーズを知ってこそ、どのように補完するかといった方向を定めることができる。

ネットワーク社会における編集者の役割は、「読者のために必要なコンテンツを選別して提案すること」に変わりつつあるため、コンテンツに対する理解も深く広くなければならない。このような役割を担う編集者の養成は、個別の大学出版部だけでは容易ではない。協会レベルでセミナー、特別講演、分野別の会合を行うなど、多様な政策と支援が必要である。

③ 絶版書の版面権の保証

絶版書の場合、出版権の設定期間が終了した本が多いため、大学出版部間の出版権の移転を通じて、コンテンツの交換が可能な環境を作らなければならない。絶版書の場合、初版を出版した出版社の版面権を認め、適切な補償後に出版権を移転させる案を探らなければならない。そうでないと、絶版書の復刊は各大学出版部自らが保有するコンテンツのみで進められることになる。これは価値あるブランドへ拡張してシナジー効果を発揮するうえで障害になる。

版面権は、編集されたページを作るため出版社が企画や原稿の整理、編集（レイアウト、校正、校閲）、制作に傾けた努力の結晶体に対し、「著作権」のような権利を与えることである。原稿を執筆した著者の権利は認められるが、企画、校正・校閲と編集デザイン、制作に寄与した出版社の権利は、韓国ではまだ保護されていない。したがって、大学出版協会のレベルで適切なルールを作り、版面権を保護する制度を備えなければならない。

④ 韓日交流叢書に復刊を含む

韓日交流叢書の発刊に向けた議論が進められている。大学出版部間の実質的な交流と協力を通じ出版物を共有することは、両国の大学出版部の発展的な未来のため非常に必要なことである。韓国と日本の大学出版部それぞれの絶版書の中で、復刊する価値がある図書を厳選し、韓日交流叢書へ収めることも意味があるだろう。広いコンテキストへの拡張の可能性がある作品の場合、両国で同時に復刊する

ことも良い方法であろう。

復刊本出版の検討の事例

大学出版部から刊行された作品の中から、復刊してほしい作品を何冊か選んでみた。事例として挙げたほかにも、復刊可能な優れた作品を数多く見つけることができる。

『音楽の楽しみ（上）（中）（下）』（梨花女子大学出版部）

ジョセフ・マクリスが著した作品で、梨花文庫シリーズとして刊行された本である。ニューヨークのグィンス・カレッジで音楽講座の教材として使用されたこの作品は、一九八二年に初版が刊行され、一九九七年の第六版以降は絶版状態である。中世から現代に至るクラシック音楽を文学・建築・彫刻・絵画などの隣接ジャンルと結び付け、社会的背景も同時に論じた解説書であり、音楽愛好家たちから好評を得ている。古本屋でも手に入らない貴重な作品になったが、最近でもこれほどの深みのあるクラシック音楽解説書を見つけるのが容易でないだけに、必ずや復刊されることを希望している。

『料理ディミバン』（慶北大学出版部）

この作品はまだ絶版ではない。しかし、古典を変用し、コンテンツ拡張を図る事例として検討に値する。

二〇〇三年に刊行された『料理ディミバン』は、慶尚北道安東市（キョンサンブクドアンドン）と英陽郡（ヨンヤン）一円で生きていた貞夫人安東張（チャン）氏が晩年に著した最初のハングル料理本であり、調理法を一四六項目に分けて叙述している。この本は『食べ物ディミバン』を影印し、昔のハングルを現代語表記に変えたあと、国語学および料理史研究者の解題を付け加えたものである。その後、慶北大学出版部は二〇一七年に『料理ディミバン』の価値を多角的に研究した学術書『料理ディミバンと朝鮮時代の料理文化』を刊行した。

今後、慶北大学出版部は『料理ディミバン』に紹介された伝統料理を体系的にレシピ化した作品を刊行する予定だという。これは、「古典の発掘→学術的研究の促進→学術研究成果の出版→古典に対する一般大衆の関心の向上」につながる流れの、最後の段階である。このような過程を通じて、刊行後時間が経過した古書は絶版とならずに、引き続き生命力を維持することができるようになる。単純な復刊ではなく、現代に合わせて古典を再生させているという点でも意味がある。さらに、レシピを年齢層にあわせて『青少年のための料理ディミバン』『シルバー世代のための健康食ディミバン』などに細分化して刊行することも可能であろう。また、『料理ディミバン』に出てくる多様な食材を抜粋し、食材の由来・歴史とそれに盛り込まれた私たちの生活の話を紹介しても興味深い作品になりそうである。このような試みこそ、学術の深さで教養の広さを追求する事例といえる。

『良佐洞研究』（嶺南大学出版部）

『良佐洞研究』は、ユネスコ世界文化遺産に登録された慶州良洞村を多角的に研究した学術書として一九八八年に刊行された。良洞村は東邦五県の一人である晦齋李彦迪とその外叔孫齋暾の子孫が代々暮らし、多くの人物を輩出した場所である。朝鮮時代の嶺南文化を導いた典型的な両班村（貴族たちが代々住んでいた村）である。この作品は、良洞村の文化・歴史・社会生活・言語・文学、晦齋の哲学と教育思想などについての共同研究をまとめた学術書である。この作品が出版されてから現在に至るまで、良洞村を総合的に扱っている学術書は出版されてこなかった。したがって、これまでの研究成果を追加することにより、良洞村に関する最も権威ある学術書になると思われる。特に嶺南大学出版部では、地域文化を紹介し、地域研究に必要な土台を提供するため〈地域文化叢書〉シリーズを刊行しており、この作品を叢書に含めることで「地域文化」ブランドとして拡張していく予定である。

むすびに

現在出版された復刊書は、デジタル時代においてアナログに対する思い出と感性を盛り込んでおり、古書を自分が「所蔵」している感覚にさせる。また、手作りの製本は読者の所蔵意欲を喚起するため、これからも持続的に人気を集めるものと見られる。一方、一部では、「絶版書の復刊が電子書籍として扱われる作品の敷居を再び高めている」と指摘されており、紙の本の復刊よりは電子書籍に切り替える必要性が提起されている。また、復刊される文学書は有名作家と詩人たちが中心であり、出版社の安易な企画を批判する声もある。

大学出版部の復刊プロジェクトは、これまでの復刊の事例をもとに、大学出版部の長所を活かし、短所を克服する方向に進まなければならない。特に、韓国と日本の大学出版部が連帯と協力を通じて両国の古いテキストを再解釈し、広いコンテキストに拡張していく努力が必要である。その結果が出版物として共有される時、大学出版部の地位はさらに高まるであろう。

特集＊学術書の復刊プロジェクト

復刊プロジェクトの意義と課題——日韓セミナーを終えて

古澤言太（日本大学出版部協会 副理事長／九州大学出版会）

後世に遺すべき本の運命を私たちはいかに変えうるのか。二〇一九年一〇月に釜山にて開催された日韓大学出版部協会の国際セミナーでは、両国の代表者が「復刊」をテーマに発表を行った。韓国側の李鍾伯氏は、発表の冒頭で「すべての本には固有の運命がある」という古代の文法学者テレンティアヌス・マウルスの言葉を引用しつつ、絶版となっている古書をいま求められる文脈に再構築し、新たな付加価値を添えて世へ送り出すという復刊のプロセスを提案した。一方、日本側の黒田拓也氏は、過去に出版された本を再び世に送り出す復刊の方法として、「書物復権」の具体的な取り組みと、日本の「文庫」システムの二つを紹介した。

李氏の発表の主旨は以下のようなものであった。大学出版部が刊行する学術書は読者対象が限定的で少部数出版であるため、その大半が絶版となって埋もれてしまう。しかし、現行の出版物に引用されるような古書は本質的な部分で普遍的な価値を持つはずであり、その古書をいまの世に再び出すにあたって欠けているものを補うことができれば復刊する価値があるはずである。また、ネット上に膨大な情報が溢れる中で、本をいかに読者に見つけてもらうかも重要である。李氏は、これらの問題点を踏まえた上で、古いテキストから新しい事実を読み取る力、時代と学問の流れを考慮したテキストの再解釈、読者の視点に立った編集、時代に即した用語や表現の変更、版面デザインの革新、大学出版部別のブランド価値構築の必要性などを復刊の要件として挙げている。

黒田氏の発表では、大学出版部二社を含む学術出版社四社が行ってきた共同復刊プロジェクト「書物復権」の実例が紹介された。このプロジェクトの主目的は、本を読者に「見えるもの」にすることである。このプロジェクトでは、

第一段階で一定の基準を決めて候補作をリストアップし、第二段階で読者に候補作を示してリクエストを募り、第三段階で読者リクエストをもとに復刊書目を決定し、第四段階で採算面の検討を行い、第五段階では制作を進めつつ読者への告知や書店へ向けた受注を行い、第六段階で「書物復権」参加社の復刊書籍が各書店へ一斉に配本される、というプロセスを経る。大手書店チェーンの協力のもと多様な流通チャネルが確保できることなど、複数社で行う共同事業であることのメリットが紹介された。もうひとつの日本の事例である「文庫」については、大学出版部が持つ自社の単行本の内容が、販売力とブランド力に秀でた一般の出版社から廉価版として出版される文庫化のしくみであり、そのコンテンツをより多くの読者に見せることを可能にするという点で、読者と著者にとってはメリットのある復刊のスタイルであると紹介された。

復刊の意義とその実現に向けて

そもそも、なぜ「復刊」なのだろうか？李氏は、大学出版部にはベストセラーよりもステディーセラーが重要であると述べている。黒田氏も、出版社にとっては、世に送り出した後に次々と新しい読者を獲得し続けてくれる本が利益の源泉であり、多くの読者が引き寄せられる強い磁場を持った存在となることが理想であると述べている。読者対象の範囲が狭い学術書は多くの場合が少部数出版であり、出版点数を獲得するための人的リソースも限られていることから、何度も版を重ね長期に亘って利益をもたらしてくれる出版物が大学出版部にとって貴重な資産であることは論を俟たない。しかし、そのような書籍は頻繁に出てくるものでもないし、いかに商品として良書であっても、それが永遠に続くわけではない。時代が変われば求められる品も変わるのであり、もしその本が現在でも価値を持ちうるものであるならば、読者にそれを「見せる」ために手を加えなくてはならないということなのだろう。

コンテンツの継承という観点からも考えてみたい。李氏が、「古書を古典にする戦略が必要である」と述べたとおり、後世に遺されるべき良書が自動的に古典となるわけではないようだ。古典化を妨げる要因としては、出版社がリスクを負わない、商品性の陳腐化、出版社によるコンテンツ価値の見落とし、社会の変質による読者層の消滅、権力者による排除（現在の日本では考えにくいが）などが考えられるだろう。反対に、出版社の目先の資金繰りのためという生々しい理由で、古書の版面をそのまま流用した復刊が行われ、それが結果的に古典化を後押しする場合もある。いずれにしても、本の運命は、その本が持つ本質的な価値とは異なる要因に左右される場合があり、私たち出版人の動向が大いにそこに関係しているのである。復刊をテーマに掲げる理由がここにあるといえよう。

では、古書を古典へと導くために、おさえておくべきポ

イントは何か。両報告者の発表に見られる共通点からそれを探ってみたい。

1　復刊対象書目を厳選すること

「書物復権」では、いくつかの基準を設けて復刊候補書目をリストアップしており、その基準のひとつとして、過去しばらくの期間に増刷がなされていたものを対象としている。つまり、学問分野を跨いで多くの読者の関心を集めるような書物など、復刊の候補作にランクインするには一定の読者数が見込まれるものである必要がある。また、刊行当時よりも現時点においてより必要とされるような内容も対象となり得る。例えば、勁草書房が二〇〇九年に初版を刊行し、二〇一八年に復刊した『ベーシック・インカムの哲学』などがこれにあたるだろう。李氏の発表では、時代を超えて現在でも参照される書目も復刊の対象となりうることを示唆している。

2　読者目線に立つこと

「書物復権」では候補書目の中から読者リクエストを募っている。李氏の発表でも、マーケティングに言及し、さらに読者目線での編集の必要性を主張している。これは大学出版部が読者に阿（おもね）ってゲートキーパーとしての役割を放棄するわけではなく、すでに内容が吟味された上で出版され市場でも一定の評価を得た書物を、復刊する時点の読者の傾向に合わせて再解釈・再構成するということだろう。

3　新たな商品価値を付与すること

新潮社の季刊誌『考える人』の記事に、根強い人気を維持する自社の古典作品の「模様替え」について紹介した次のような記述がある。「新潮文庫における古典は、古くから版を重ねているため、文字が小さいままのものも少なくありません。文字を大きく組み直し、装幀も新しくするのが『模様替え』作業です」[1]。用語の刷新、版面の革新、装丁の変更、価格の再設定など、復刊する今の読者の購買意欲を喚起する価値を付与する必要があるのだ。

4　「共同」によって欠けている力を補うこと

「書物復権」では共同で事業を行うことにより、各社が持つ顧客リストを活用したり、あるいは多様な流通チャネルを確保したり、さらにセミナーやシンポジウムも行うなど、単独では行うのが難しいことを実現している。李氏の発表の中でも、大学出版部協会レベルで復刊を支援するためのいくつかの提言がなされていた。その中でも特に興味深いと感じたのは、分野別専門編集者の養成である。復刊の対象となる古書発掘のためには目利きの存在が不可欠だが、人員に限りのある個別の大学出版部では配置できない専門編集者を、協会全体で養成しようというものである。これは各大学出版部別に自社の強みとなる専門分野に仕事

を特化させ、協会全体で役割分担するようなことも視野に入れたアイディアのようにも見受けられる。韓国大学出版部協会は、既に全国的な出版流通業務の共同事業を実現させており、協会が強いリーダーシップを発揮してこうした計画を実現することは不可能なことではないだろう。

課題と今後の展望

一方、両者の発表からは、復刊に関する課題も挙げられた。李氏は版面権を保護する制度の必要性を訴えた。大学出版部間でコンテンツを融通しあう際に原書版元に一定の利益が還元されるなんらかの仕組みがなければ、復刊が促進されにくいということだろう。日本の「文庫」が、より広範な読者を獲得するために有益なシステムである一方、原書版元には利益があまり還元されず、むしろ抱えている単行本の売れ行きを圧迫する場合があるという点において、同様の課題を抱えているといえる。黒田氏からは、近年は出版市場の縮小によって復刊のハードルが上がっていることも指摘された。国文学者の今西祐一郎氏は、「出版は、その時代の知識のあり方、知の姿を反映していると考えてよい」と述べている。[2] 日本における学術書を含む出版市場の衰退は、現在の大学を動かす科学技術政策のありようを反映していると捉えることができるかもしれないし、あるいは、デジタルトランスフォーメーションという点で読者の知識獲得方法の変容に出版側が追いついていないことの表れと考えることもできるだろう。特に後者について、私たち大学出版人は繋がるべき読者層を把握し、彼らとコミュニケーションをとって対応策を考え、難解な書物を読む愉しみも読者へ伝えていく必要がある。私たちは自社が持つ古書という資産の棚卸しを行い、読者との関わりを通じて様々な形でそのコンテンツを再利用することができるのだ。また、各社が持つ読者との繋がりが大学出版部間の共同によってさらに大きなネットワークとなれば、より多くの古書の運命に影響を及ぼすことにもなるだろう。長年交流を行ってきた日韓大学出版部協会だが、いずれは事業面での共同も期待される。これまで行ってきた国際活動を今後も継続させ、さらに他の国々も巻き込みながら、より遠くの読者へ相互に本を「見せあう」ことに繋げていきたいものである。

（1）「考える本棚」季刊誌『考える人』新潮社、二〇〇三年七月三一日（https://kangaeruhito.jp/mailmagazine/2149）。
（2）今西祐一郎「『源氏物語』はいかにして「古典」になったか」、逸身喜一郎・田邊玲子・身﨑壽 編『古典について、冷静に考えてみました』岩波書店、二〇一六年。

大学出版部ニュース

表示価格は税別です。

大学出版部協会・今後の予定

四月三日（金）一五時〇〇分～
　編集部会・総括会議
　於：武蔵野美術大学吉祥寺校
四月一七日（金）一一時〇〇分～
　営業部会・総括会議
　於：東京大学出版会　第一会議室
四月二三日（木）一五時〇〇分～
　今期決算及び来期予算打合せ
　於：大学出版部協会事務局
四月二四日（金）一五時〇〇分～
　第六回　理事会
　於：東京大学出版会　第一会議室
五月中旬頃～監　査
　於：大学出版部協会事務局
五月二九日（金）
　一三時三〇分～一五時一五分
　二〇二〇年度　定時社員総会
　一五時三〇分～一七時三〇分
二〇二〇年度　営業部会・編集部会
　一八時〇〇分～二〇時〇〇分
二〇二〇年度　懇親会
　於：出版クラブ

※新型コロナウイルスの影響のもと三月二〇日時点におきまして、あくまで予定であり、開催延期及び中止の可能性がありますこと、ご了承ください。

北海道大学出版会

▼清水靖久著『**丸山真男と戦後民主主義**』（A5判・三三八頁・二九〇〇円）彼は東大全共闘に「ナチもしなかった」と言ったのか――戦後半年余、民主主義に懐疑的であった丸山は人民主権の新憲法と六〇年安保を経て「永久革命としての民主主義」に至る。その彼は六〇年代末に直面した困難にどう応えたのか。

▼中村睦男・常本照樹・岩本一郎・齊藤正彰編著『**教材憲法判例　第5版**』（A5判・六一六頁・三二〇〇円）待望の判例集の第5版。三〇テーマ六〇判例は原則として原文を掲載。憲法学習に欠かせない関連判例一二〇件の重要な判示部分を抜粋掲載。判例の流れ・位置づけと、最高裁の個別意見の概要や法改正などの判決後の動向、関連する判例をコンパクトに解説。全面横組み。

▼田畑伸一郎・後藤正憲編著『**北極の人間と社会―持続的発展の可能性**』（A5判・三〇六頁・三四〇〇円）急変する北極域の気候変動と環境変化が、人間社会にどのような影響をもたらすのか、また、人間はそれにどのように対応するべきかを、経済、環境、国際関係から検討。

弘前大学出版会

▼髙瀬雅弘編著『**人と建物がつむぐ街の記憶―山形県鶴岡市を訪ねて(1)**』（A5判・二〇四頁・三二〇〇円）作家・藤沢周平が愛した故郷、山形県鶴岡市。積み重ねられた想いとそこに息づく物語を集めた。ふんだんな写真・資料とともに、街のあゆみと魅力を辿る。

▼髙瀬雅弘編著『**人と建物がひらく街の記憶―山形県鶴岡市を訪ねて(2)**』（A5判・一九六頁・三五〇〇円）歴史が息づく山形県鶴岡市。「開かれた」建物や街並み、文明「開化」の象徴、大地を「拓く」努力と奮闘を伝える場所を訪ねる。絵葉書や古写真を多く収めたシリーズの第二弾。

▼吉岡良雄・長瀬智行共著『**通信工学～情報メディアの基盤を支える技術～**』（B5判・一五八頁・二〇〇〇円）電子工学科の教科書として書かれた本書は、情報伝送媒体の基礎技術について具体的例題を通じて詳述。放送局や携帯電話の基地局を管理する技術者にも有益である。

東北大学出版会

▼新妻弘明著『**科学技術の内と外**』（四六判・一九八頁・二八〇〇円）科学技術の進展は科学技術の内側にいる人と外側にいる人との相互作用によって促されているが、科学技術に関する内外の認識の違いと隔たりは意外に大きい。科学技術者が置かれている現状、科学技術者の内面と犯しやすい過ちなどについて述べるとともに、人としての科学技術者のあり方を問い直す書。

▼東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会編『**ハイブリッドな文化**』（四六判・二〇〇頁・二二〇〇円）近年はエコカーなどでおなじみの「ハイブリッド」なる言葉だが、本来は「異なる要素の混淆」や「雑種」を意味し、生物や機械だけではなく社会文化的事象にも広くあてはまる。本書では、宗教学、日本思想史学、言語学、心理学、社会学、といった人文社会科学の観点から、我々の文化に潜んでいる様々な「ハイブリッド」を取り上げ思考を深める。東北大学大学院文学研究科による市民講座を書籍化した「人文社会科学講演シリーズ」の記念すべき第10作目。

流通経済大学出版会

▼清水義明監修 小谷究・谷釜尋徳編著『**籠球五輪―バスケットボール・オリンピック物語**』（A5判・二〇八頁・一四〇〇円）一九三六年のベルリンから一九六四年の東京オリンピックまでの日本のバスケットボールの歴史を語った学術書として本邦初の試みである。

▼福井一喜著『**自由の地域差―ネット社会の自由と束縛の地理学**』（四六判・二八四頁・一二〇〇円）ネット社会化がもたらすのは自由だろうか、束縛だろうか？私たちは「好ましい形で束縛される方法」を、地域的・空間的な視点で考えるべきである。

聖徳大学出版会

▼塩美佐枝・古川寿子・重安智子・井口厚子・関口明子著『**教職実践演習―幼稚園教諭・保育士・保育教諭を目指すために**』（B5判・一四〇頁・一六〇〇円）幼児教育に携わるために学んできた総まとめとして、いじめ、食育、特別支援教育や、幼・小連携、家庭や地域との連携の大切さを具体例を挙げて説明。総合的な実践的指導力の基礎を修得できる一冊。

▼宇佐美博子・河村久・神田由紀・黒須利夫・小林芳枝・長橋雅俊・松井孝夫・八木正一著『**教職実践演習**』（B5判・一四六頁・一六〇〇円）中学校・高等学校教諭を目指す方に向け、教職課程の振り返りから生徒指導要録・通知表の記入の仕方まで掲載し解説した教職の魅力が満載の一冊。

▼聖徳大学特別支援教育研究室編『**改訂2版 一人ひとりのニーズに応える保育と教育―みんなで進める特別支援**』（A5判・二四九頁・一六〇〇円）特別支援教育について、子どもの理解と指導・支援に必要な基礎知識を初学者にも分かりやすく解説した、最新版・特別支援教育本。

慶應義塾大学出版会

▼ティモシー・スナイダー著／池田年穂訳『**自由なき世界―フェイクデモクラシーと新たなファシズム**』（四六判・上巻二七二頁・下巻二四〇頁・各二五〇〇円）ロシアによるクリミア併合、イギリスのEU離脱、アメリカのトランプ大統領誕生――。西側諸国を結束させてきた民主主義の価値観は、いまなぜ動揺し、世界は混乱しているのか。民主主義や法の支配を脅かす脅威の本質をあきらかにする世界的話題作。

▼井庭崇編『**クリエイティブ・ラーニング―創造社会の学びと教育**』（四六判・六七二頁・三六〇〇円）子どもたちの創造力を育む、クリエイティブ・ラーニングの可能性について、気鋭の研究者・井庭崇が、教育界のフロントランナーを迎え、徹底討論。

▼志村真幸『**南方熊楠のロンドン―国際学術雑誌と近代科学の進歩**』（A5判・二九六頁・四〇〇〇円）一九世紀末、最先端の都市ロンドンに留学し、国際学術誌『ネイチャー』『ノーツ・アンド・クエリーズ』に三七五篇もの英文論考を寄稿した南方熊楠の営為を捉えなおす。

専修大学出版局

▼専修大学社会科学研究所編『**専修大学社会科学研究所七〇年史**』専修大学社会科学研究所社会科学研究叢書二二（A5判・四三四頁・四五〇〇円）専修大学社会科学研究所史、座談会、寄稿、資料の四編で構成。資料には、各種研究会、シンポジウム、月報・年報目録をはじめとする詳細な記録を収録。専修大学社会科学研究所七〇年間の記録集。

▼専修大学編『**専修大学史資料集　第9巻　新制専修大学の出発**』（A5判・四〇〇頁・四〇〇〇円）新制大学へいたる道のり、生田キャンパス造成、労働学院等の附置機関、終戦直後から戦後にかけての証言などの資料を集成。

玉川大学出版部

▼小原芳明著『**教育の使命**』（四六判・二七二頁・二六〇〇円）一私学として画期的な試みを成し遂げた原点は、社会に貢献する人を世に送り出そうという教育者としての使命感である。創立九〇周年にあたり、玉川学園と玉川大学が取り組んできた挑戦と改革、建学の精神を守り受け継いできた足跡をたどる。

▼学校図書館まなびの会著『**学校司書研修ガイドブック―現場で役立つ23のプログラム**』（A5判・一九二頁・二〇〇〇円）学校図書館にかかわるにあたって理解しておくべき基本から、テーマ別の具体的な研修案までを網羅した司書研修ガイドブックの決定版。現場を知る執筆陣が、教職員と協働できる学校司書を育てるための研修のノウハウを示す。

▼アーサー・ビナード作／スズキコージ画『**そもそもオリンピック**』（B4変型判・三四頁・一八〇〇円）日本初の五輪金メダリスト織田幹雄の生い立ちから、一九二八年のアムステルダムオリンピックまでの大活躍までを、走って跳ぶわたしたちをそもそもの始まりから見つめてきた風が語る。

中央大学出版部

▼新原道信、宮野　勝、鳴子博子編著『**地球社会の複合的諸問題への応答の試み**』（A5判・四四四頁・四四〇〇円）（中央大学学術シンポジウム研究叢書12）惑星地球規模となった「地球社会（Planetary Society）」で生起しつつある複合的問題の意味を理解し比較する学はいかにして可能か。異なるタイプの他者との相互理解、社会的痛苦の縮減を可能とする開発・文化・政治・経済・社会をどのように構想するのか。いま私たちがどこにいるのか、社会はどの地点にあるのか、地球社会の問題へのアプローチはいかにして可能か。本書は、異なる学問の手法を錬磨してきた社会科学者が、社会と知の転換点に立っていることを認めつつ、それぞれの分野で蓄積してきた知を結び合わせ、再構成していくための「対話的なエラボレイション」である。

東京大学出版会

▼大村敦志著『**民法のかたちを描く―民法学の法理論**』（A5判・三四〇頁・六五〇〇円）日本の民法学を牽引するのみならず、海外との活発な交流を通じて他国にも影響を及ぼしてきた泰斗による、越境する民法学構築の試み。

▼渡辺茂著『**動物に「心」は必要か―擬人主義に立ち向かう**』（四六判・二五六頁・二七〇〇円）なぜ動物を人間になぞらえたがるのか。デカルトからドゥ・ヴァールまで、人間を特別視する思想の起源と危険性を問う。心の多様性への理解を促す警鐘の書。

▼福永真弓著『**サケをつくる人びと―水産増殖と資源再生**』（A5判・四九四頁・六三〇〇円）サケと人がともに生きる場の再生を目指して、「つくられた資源」としてのシロザケの歴史を読み解きながら「自然」や「野生」とは何かを問い直す。

▼三谷博著『**日本史のなかの「普遍」―比較から考える「明治維新」**』（A5判・三九二頁・五〇〇〇円）言語と史料の境界を越えて、日本史が世界に開かれるための方法論と分析視角とは。日本史の可能性を広げる新たな問題設定を追求する。

東京電機大学出版局

▼藤田聡・釜池宏・下秋元雄・皆川佳祐他著『**昇降機工学**』（A5判・三七〇頁・五二〇〇円）昇降機に関する日本初の専門書。エレベーターやエスカレーターなどの昇降機に欠かせない機械や電気、制御、情報といった基盤工学分野や、耐震設計などの建築に関する知識を体系的にまとめた。本書で得た知識を駆使することで、多くの昇降機に関する問題解決が可能になるとともに、新たな昇降機技術の開発に役立つ。有益な昇降機を設計及び開発できる技術者に、そしてそれを安全に利用するための保守又は保全技術者に勧める最適な書。

▼バイオメカニズム学会編／増田正・佐渡山亜兵著『**バイオメカニズム・ライブラリー　多点表面筋電図**』（A5判・二〇〇頁・三〇〇〇円）新たな応用の可能性が期待される多点表面筋電図の方法論や応用例について、多くの研究論文を参照しながら詳解。ロボットやスポーツ工学、医療などの幅広い研究領域で活用が期待されている本技術について、他領域の研究者、技術者が学べるようにまとめた。解像度の高い筋電計測技術が学べる。

法政大学出版局

▼B・レジンスター著　岡村俊史・竹内綱史・新名隆志訳『**生の肯定―ニーチェによるニヒリズムの克服**』（四六判・五五八頁・五四〇〇円）ニーチェ独自の思考の道筋を、錯綜する解釈の歴史から取り出して内在的かつ体系的に記述する試み。

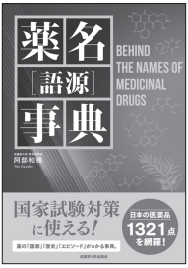
▼磯直樹著『**認識と反省性―ピエール・ブルデューの社会学的思考**』（A5判・四三八頁・五〇〇〇円）膨大な未邦訳文献と一次史料を用い、その理論の独自性を浮き彫りにする。「社会学とはなにか」と改めて問いかける気鋭の研究者による書。

▼深澤南土実著『**バレエ・デ・シャンゼリゼ―第二次世界大戦後フランス・バレエの出発**』（A5判・二七八頁・五〇〇〇円）パリの芸術シーンを革新したバレエ団の誕生から終焉までの歴史を、広範な資料を通じて再構成する。図版多数。

▼鄭敬珍著『**交叉する文人世界―朝鮮通信使と兼葭雅集図にみる東アジア近世**』（A5判・二七六頁・四四〇〇円）成大中ら庶孽階層出身の知識人と木村蒹葭堂ら市井の京坂知識人らはなぜ相互理解を実現できたのか。文人の伝統や両国の異なる歴史的文脈から読み解く最新研究。

武蔵野大学出版会

▼阿部和穂著『**薬名【語源】事典**』（B5判・七六〇頁・六八〇〇円）その薬はなぜその名前がついたのか？「語源」「歴史」「エピソード」から薬名の由来を解説。日本の医薬品1321点を網羅した、薬剤師国家試験対策にも最適な一冊。



▼宮園健吾・大谷弘・乗立雄輝編『**因果・動物・所有　一ノ瀬哲学をめぐる対話**』（A5判・三九六頁・三〇〇〇円）哲学史研究、因果、確率、曖昧性、責任、死刑、戦争、動物倫理、原発・放射線など、広大な領域にまたがる一ノ瀬哲学について、執筆者たちが議論を行う。

▼城月健太郎編著『**社交不安症の基礎理解と認知行動療法**』（A5判・一四八頁・二五〇〇円）他者の注視を浴びることに対する恐怖や不安を特徴とする社交不安症について、その実態や心理学的なメカニズムについて概観する。

武蔵野美術大学出版局

▼三澤一実編『**美術の授業のつくりかた**』（A5判・四四八頁・二八〇〇円）小・中・高（図画工作、美術・工芸）の教員、教員を目指す人に向けて、チーム学校のアートディレクターとして活躍する二二人による美術教育実践事例集。新学習指導要領の理解を深め、挑戦的な授業をつくるムサビ・メソッド！

▼大坪圭輔編『**求められる美術教育**』（A5判・二五六頁・二〇〇〇円）新学習指導要領による授業実践に向けて、美術教育のエキスパート一五人により編まれたムサビ教員免許状更新講習テキスト。これからの社会を生きる子どもたちの資質・能力を育むために、教師が取り組むべきことは何か。

▼高橋陽一・伊東毅編『**これからの生活指導と進路指導**』（A5判・二八〇頁・二一〇〇円）教育現場での実践から法令・歴史・制度まで、チーム学校の一員となる教員志願者に向けて新学習指導要領対応の社会に開かれた生活指導論。不登校、いじめ、ジェンダー、多文化、一八歳成人…いま教室にある変化と対応を具体的課題として論じる。

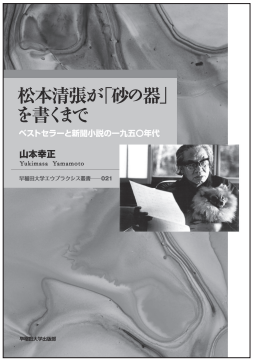
明星大学出版部

▼樋口修資『**第二版　教育の制度と経営15講**』（A5・二四〇頁・二〇〇〇円）憲法・教育基本法体制及び公教育制度を支える国と地方の教育行政の仕組みを踏まえて、学校制度と就学制度、学校の管理運営と組織編成、教職員の身分・服務と勤務管理や研修制度、学校の説明責任と地域参画の学校づくりなど教育の制度的・経営的事項の全体像を明らかにする。また、教育課程と生徒指導について取り上げるとともに、安全安心な学校生活を確保するための学校の保健安全管理の事項を取り上げる。

▼小川哲生・菱山覚一郎『**第二版　教育方法の理論と実践**』（A5・一六〇頁・一五〇〇円）教職を志す人々の参考書として、また教育現場に立つ先生の手がかりとして、教育方法の理論と実践を融合させ、かつ教育課程の導入書として本書は作られた。それは、まず教育方法という学問分野の概略の確認から始まり、教育方法の概念と歴史、基本原理に触れる。そして、具体的に授業を展開する方法や技術の育成に力点を置き、授業の創造または改善に役立つ内容を扱う。

早稲田大学出版部

▼山本幸正著『**松本清張が「砂の器」を書くまで―ベストセラーと新聞小説の一九五〇年代**』（A5判・三〇〇頁・四〇〇〇円）読売新聞夕刊で一九六〇年に連載が始まる「砂の器」により松本清張は国民的作家に大きく近づいたが、当時清張が超えなければならない壁が三つあった。一つは、全国紙の朝刊を占めていたベテラン作家たち。残る二つとは…。

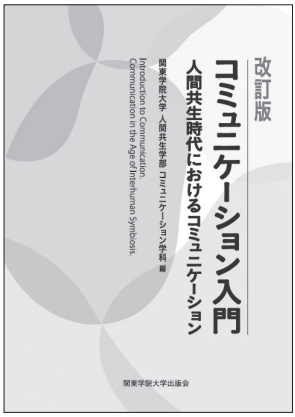


▼瀬川至朗編著『**ニュースは「真実」なのか―「石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞」記念講座 2019**』（四六判・三六六頁・一八〇〇円）ジャーナリズムとは何か。それはどのような社会的働きをしているのか。ジャーナリストとは誰か。早稲田の人気講座シリーズ、待望の最新刊。

関東学院大学出版会

▼関東学院大学人間共生学部コミュニケーション学科編『**改訂版　コミュニケーション入門―人間共生時代におけるコミュニケーション**』（A5判・一八〇頁・一七〇〇円）現代のコミュニケーションには、社会の変化によって大きく変化した部分と、従来から変わらない部分がある。本書はメディア、ビジネス心理、グローバルの三つの側面から共生時代のコミュニケーションを考える。

〈目次〉第1部　コミュニケーションとは何か／第2部　グローバル化とコミュニケーション／第3部　ビジネス心理とコミュニケーション／第4部　メディアの発展とコミュニケーション



東海大学出版部

▼十亀昭人編著『**宇宙建築Ⅱ―Uzumarch 火星居住施設**』（B5判・八〇頁・一九〇〇円）シリーズ二巻目は前回に引き続き、宇宙建築賞の第3回「月面基地」、第4回「火星基地」の入賞作品を取り上げ、審査員の作品に関する解説、宇宙建築に関わる研究者などの対談を掲載する。

▼和田龍太著『**中国をめぐる英米関係―イギリスによる航空機技術の対中輸出を中心に、1969-1975年**』（A5判・二二四頁・三五〇〇円）中ソ対立激化、米中接近・ベトナム戦争終結といった激動の中、英国と米国が対中貿易政策、特に安全保障に密接に絡む航空機技術の輸出に関し緊密な協力関係を構築したことを、豊富な一次資料を用いて実証する。

▼ハーベイ・B・リリーホワイト著／細将貴監訳『**ヘビという生き方**』（B5判・二六四頁・四五〇〇円）『How Snakes Work：Structure Function and Behavior of the World's Snakes』の日本語版。ヘビの生態を網羅的に解説。※3章、6章は抄訳を掲載。全訳は電子データを弊部HP内に収録。

名古屋大学出版会

▼広田照幸編『**歴史としての日教組（上：結成と模索）（下：混迷と和解）**』（A5判・三三六頁／三二六頁・各三八〇〇円）過剰な期待とゆがんだ批判の狭間で、実像とかけ離れたイメージが作られてきた日教組。膨大な非公開史料や関係者へのインタビューに基づき、学術的にその歴史を徹底検証する。

▼蘭信三・川喜田敦子・松浦雄介編『**引揚・追放・残留―戦後国際民族移動の比較研究**』（A5判・三五二頁・五四〇〇円）日本人引揚やドイツ人追放をはじめとする戦後の人口移動を、ギリシア＝トルコの住民交換が画期となった近代国際政治の展開から解明するとともに、地域や帝国の枠組みをこえた知られざる連関を浮かび上がらせる。

▼佐野誠子著『**怪を志す―六朝志怪の誕生と展開**』（A5判・三八二頁・六三〇〇円）「怪力乱神を語らぬ」儒教の国にあって、怪異はなぜ、いかにして記録されるようになったのか。古代中国の「志怪」について、史書の伝統や仏教伝来との関係を軸に、社会的文脈から生成過程、文体まで、初めてトータルに捉える。

名古屋外国語大学出版会

▼川原功司著『**言語の構造―人間の言葉と動物のコトバ**』（A5判・三一八頁・六三〇〇円）動物との比較も踏まえた新鮮な言語理論。言語の仕組みとは何か？チョムスキー生成文法の方法論を駆使。

▼松山洋平著『**第二外国語で学ぶアラビア語入門**』（B5判・一七〇頁・二八〇〇円）読みにくいアラビア文字を大きく表記した。第二外国語としての学習者に適切な内容と難易度。著者はアラブ文化、アラビア語教育の第一人者。

▼梅垣昌子著『**フォークナー、フォークナー**』（仮題・四六判・二八〇頁予定）「あの夕陽」「永遠の戦場」など傑作短編群で辿るフォークナー大山脈。五月刊予定。

三重大学出版会

▼20年史編集委員会編『**三重大学出版会20年史**』（B5判一一八頁、五〇〇円）目次■三重大学出版会の発展を祈って・駒田美弘■三重大学出版会への歩み・安達六郎■出版会社長職の3年・川口元一■株式会社初年度（03-07）、鎮西康雄他・①株式会社初年度の躓き、②未来は闇に見えた、③手探りの再建軌道、④再建準備Ⅰ―キャッシュ減少と理事会、⑤再建準備Ⅱ―緊縮経営、⑥再建準備Ⅲ―緊縮経営の成果

■経営再建（08-17）、山本哲朗他・①在庫圧縮・印刷費引き下げ、②在庫縮小の経営、③図書制作費の削減、④出版会システムの起動、⑤日本修士論文賞、⑥その他の経営課題　■三重大学出版会の明るい未来―これからの20年・内田淳正

【資料編】①発起人名簿、②役員および職員名簿、③出版会設立までの歩み、④出版会理事名簿、⑤三重大学出版会定款、⑥三重大学出版会年表、⑦社長・役員名簿、⑧日本修士論文賞受賞者一覧、⑨刊行物カタログ、⑩初代理事長　安達六郎、⑪初代編集長　阿閉義一氏　弔辞・山下護、以下目次略す。

京都大学学術出版会

▼J・S・ミル『**論理学体系**』（全四冊）刊行開始。19世紀イギリスの思想家J・S・ミルの最初の著作（初版一八四三年）の全訳。帰納に基づいた推論を提唱する科学方法論史上の古典。近年の研究成果を踏まえた新訳を提供する。シリーズ編者＝伊勢田哲治・佐々木憲介。◆第1回配本、江口聡・佐々木憲介編訳『4』（近代社会思想コレクション、四六判・四五二頁・三六〇〇円）。

▼田辺明生・竹沢泰子・成田龍一編『**環太平洋地域の移動と人種―統治から管理へ、遭遇から連帯へ**』（A5判・四二八頁・三六〇〇円）肌の色ではない文化や生活習慣の違いによる「目に見えない人種化」が世界を覆うなか、私たちはどう抗えるのか？芸術や対話の場を通してオルタナティブなグローバル化の道を探る。

▼佐藤若菜著『**衣装と生きる女性たち―ミャオ族の物質文化と母娘関係**』（地域研究叢書、菊判・三二〇頁・三八〇〇円）ミャオ族の美しい民族衣装に織込まれた社会関係に関わる規範と歴史を解き、物質文化研究と地域研究とを結ぶ意欲作。オールカラー。

大阪大学出版会

▼斎藤理生著『**小説家、織田作之助**』（四六判・三八〇頁・二三〇〇円）織田作之助の代表作から隠れた名作までを丁寧に読み解く。作之助は無頼派として人気を博しながら、小説表現の可能性を追究した実験小説家でもあった。『夫婦善哉』を書いた大阪の作家」だけではないその魅力を伝える。

▼ハロルド・ウィンター著／河越正明訳『**やりすぎの経済学　中毒・不摂生と社会政策**』（四六判・三五六頁・二三〇〇円）人は時にこれまでの苦労を水の泡にするような不合理な行動を平気で起こす。タバコ、酒、肥満の三つのやりすぎを説き、人々を彼ら自身のすべてのやりすぎと中毒から守る社会政策を、ウィットに富んだ語り口で展開していく。

▼瀧口剛編著『**近現代東アジアの地域秩序と日本**』（A5判・四三二頁・六〇〇〇円）二〇世紀の東アジアにおいて、各国の動向が交錯しつつ形成されてきたアジア秩序構想の歴史的生成およびその諸相を論じる。

関西大学出版部

▼J・ロバート・レノン著、李春喜訳『**左手のための小作品集―100のエピソード**』（四六判・二五四頁・二〇〇〇円）現在米国で活躍中の小説家J・ロバート・レノン著 Pieces for the Left Hand: 100 Anecdotes の全訳。何度も読み返したくなる掌編100編を一挙に翻訳。

▼橋口勝利著『**大学生、福島を聴く―東日本大震災と「心の復興」**』（A5判・三〇四頁・二四〇〇円）「福島のありのままを伝えてください」。東日本大震災から9年間を大学生が克明に記録する。

▼Katsuhiko Kitagawa 著『**Japan's Economic Relations with Africa in a Historical Perspective: A Study of The Pre-War Japanese Consular Reports**』（A5判・一六〇頁・二二〇〇円）日本・アフリカ関係史研究は、両大戦間期の世界経済史研究に新たな知見を加え、アフラシア世界の新史観を拓く。全文英語。

関西学院大学出版会

▼ミンガド・ボラグ著『**草はらに葬られた記憶「日本特務」―日本人による「内モンゴル工作」とモンゴル人による「対日協力」の光と影**』（A5判・二六四頁・二四〇〇円）。内モンゴル工作をモンゴル人の視点から描く

▼大喜多喜夫著『**使って楽しい英語イディオム400選―由来と用例**』（A5判・二五六頁・二〇〇〇円）対話形式でイディオムを楽しく紹介する。

▼金崎健太郎著『**情報システム調達の政策学―マイナンバーシステム調達における実態と課題**』（A5判・一六六頁・三四〇〇円）品質と価格の適正を担保する調達制度とは。

▼阿部卓也著『**〈読み〉のディヴェルティメント―ハントケ、ニーチェ、カント、フォークナー、トーマス・グレイ**』（A5判・一六〇頁・二八〇〇円）書き手の思考を補え直すための読みとは。

▼李政元著『**裁判例に学ぶ家族と暴力―家族福祉の危機と回復**』（A5判・二二四頁・二二〇〇円）家族間暴力をテーマに「家族福祉論」を学ぶ。

広島大学出版会

▼寺垣内政一著『**平面幾何の公理的構築**』（A5判・一四四頁・八九〇円）本書では、一部直感的な理解に頼る（例：直線とはまっすぐな線、平面とは平らな面）日本の数学・幾何内容教育に一石を投じ、平面幾何を公理的に構築する。集合論の基本的な知識だけを用いて、ユークリッド幾何と非ユークリッド幾何を同時に構築する。現職の数学教員や教員志望の学生には特に知っておいてもらいたい内容である。二〇一九年三月刊。

▼宮川朗子・安川孝・市川裕史著『**フランス大衆小説研究の現在**』（A5判・一八一頁・一九〇〇円）一九世紀以降、安い値段で大量生産されたフランス大衆小説は、しばしば悪しき書物とみなされたが、広い読者層を熱狂させた。学校教育の場で教えられたり、大学の文学研究の場で論じられたりしてこなかったために、本格的に研究が始まったのは一九九〇年代のことである。未開拓の部分が多いこの分野の入門書として、近年の研究状況・歴史・参考文献をまとめた、コンパクトで便利な一冊。二〇一九年九月刊。

九州大学出版会

▼酒井健太朗著『**アリストテレスの知識論―『分析論後書』の統一的解釈の試み**』（A5判・二六六頁・四五〇〇円）『後書』原典から解釈案まで緻密に読解することで、アリストテレスの知識概念を明らかにする。九州大学人文学叢書16

▼スベン・クラーマー著『**「昭和の大合併」と住民帰属意識**』（A5判・二六二頁・四二〇〇円）「昭和の大合併」の時期の四つの事例において、住民帰属意識がその賛否をどう左右したかを分析する。九州大学人文学叢書17

▼國盛麻衣佳著『**炭鉱と美術―旧産炭地における美術活動の変遷**』（A5判・三五八頁・六〇〇〇円）キャンバスに遺された炭鉱の記憶。産炭地で展開された芸術文化を読み解く。

▼高木彰彦著『**日本における地政学の受容と展開**』（A5判・三四六頁・三七〇〇円）「悪の論理」か、学問か。戦後タブー視された地政学について、起源から日本での変遷まで、同時代の国家体制や経済・社会情勢と結びつけて考察する。

編集後記

今回の特集は、毎年恒例の「日韓セミナー」。出版界の国際交流としては特筆すべき蓄積を誇るこのイベントは、昨年一〇月の開催を以って三七回を数えました。派遣団の行程については樫葉さんの論考に手際よく纏められておりますが、舞台は韓国南部の港湾都市・釜山。市街には、さながら神田神保町の古本屋街を思わせる古書街「宝水洞 本屋通」があり、本誌の表紙は、そのなかに位置する古書店を写したものです。

セミナーの主要テーマは、黒田さんと李さんの論考が示すように、ロングセラーとなり得る大学出版部の刊行物であればこそ有意義な「古書復刊のための方策」。盛会のセミナーを踏まえ、復刊をめぐる現状と課題、そして今後の展望を、古澤さんが総括しております。

新型コロナウイルスの影響によりさまざまな国際交流が中断を余儀なくされておりますが、沈静化の暁には第三八回が開催されることを念頭に、日韓の出版部それぞれが新たなチャレンジを積み重ね、その成果をセミナーの場で議論したいものです。

【50音順】2020年4月1日現在

ダイニック㈱	〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル TEL 03-5402-1811
㈱太平印刷社	〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16 TEL 03-3474-2821
㈱太洋社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1 TEL 058-324-2111
㈱竹尾	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6 TEL 03-3292-3617
㈱東京弘報社	〒101-0051 東京都千代田区神田猿楽町1-2-1 TEL 03-3291-1771
㈱とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F TEL 03-5148-7200
東光整版印刷㈱	〒135-0006 東京都江東区常盤2-12-15 TEL 03-3632-0801
東洋美術印刷株式会社	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-6-2 TEL 03-3265-9861
㈱トーヨー企画	〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7 TEL 075-411-8288
図書印刷㈱	〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36 TEL 03-5843-9700
㈱日新広告社	〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F TEL 03-3263-9431
㈱日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 TEL 03-6256-7528
日本宣伝販売㈱	〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋3-278 TEL 048-620-1021
㈱博報堂	〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F TEL 03-6441-6711
藤原印刷㈱	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5 TEL 03-3291-0191
㈱平文社	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7 TEL 03-3944-0301
㈱毎日新聞社	〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 TEL 03-3212-3340
誠製本㈱	〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5 TEL 03-3967-3952
㈱遊文舎	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31 TEL 06-6304-9325
㈱読売新聞東京本社	〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 TEL 03-3242-1111
㈱ライトコミュニケーション	〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町11 岩田ビル5F TEL 03-3251-7571

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援くださる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同くださり、ご支援いただいている各社様をご紹介します。なお、「賛助会員」に関するお問い合わせは、協会事務局までお寄せください。

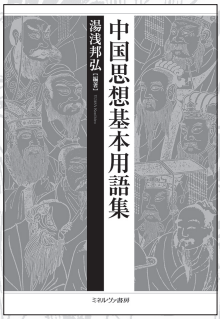
一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

㈱ 朝 日 新 聞 社	〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 TEL 03-5540-7749
亜 細 亜 印 刷 ㈱	〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154 TEL 026-243-4858
㈱ ア ベ ル 社	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408 TEL 03-3235-1360
尼 崎 印 刷 ㈱	〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20 TEL 06-6494-1122
㈱ A L E	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階 TEL 03-5652-8627
王 子 製 紙 ㈱	〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5 TEL 03-3563-7072
㈱加藤文明社印刷所	〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-15-6 K-STAGE TEL 03-3261-8281
城 島 印 刷 ㈱	〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6 TEL 092-531-7102
㈱紀伊國屋書店	〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10 TEL 03-6910-0510
㈱ ク イ ッ ク ス	〒456-0004 愛知県名古屋市熱田区桜田町19-20 TEL 052-871-9190
㈱ 粂 川 印 刷	〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7 TEL 03-3943-9811
㈱クリムゾンインタラクティブジャパン	〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F TEL 03-3525-8001
港 北 出 版 印 刷 ㈱	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7 TEL 03-5466-2201
三 松 堂 ㈱	〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階 TEL 03-6823-5360
三 美 印 刷 ㈱	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8 TEL 03-3803-3131
三 立 工 芸 ㈱	〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-2-10 寺西ビル3F TEL 03-3261-5171
三 和 印 刷 ㈱	〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1 TEL 026-285-2300
信 濃 印 刷 ㈱	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11 TEL 03-3237-3601
㈱ 渋 谷 文 泉 閣	〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7 TEL 026-244-7185
㈱ 眞 興 社	〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町19-2 TEL 03-3462-1181
新 日 本 印 刷 ㈱	〒162-0801 東京都新宿区山吹町342 TEL 03-3269-3611
㈱ 精 興 社	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9 TEL 03-3293-3021
創 栄 図 書 印 刷 ㈱	〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766 TEL 075-255-2288
大 同 印 刷 ㈱	〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20 TEL 0952-71-8550

豊富な図版、資料、名言からコラムまで！
楽しく読めて、ささっと使える充実の一冊

中国思想基本用語集

湯浅邦弘編著　四六判美装カバー384頁　2500円



●本用語集の特長

＊古代から近現代に至る中国思想の主要な基本用語を網羅したコンパクト事典。

＊全体をおおむね時代順・テーマ別に６つの章に大別した上で、それぞれ〈人物〉〈文献〉〈事項〉に分け、１項目400字程度で解説。

＊第６章までの項目総数は426。内訳は、人物148、文献104、事項174。また、第７章「中国古典の名言」は59、コラムは６、附録の資料は計11。

△本文レイアウト見本▷

湯浅邦弘編著　好評既刊

概説 中国思想史
426頁／3000円／４刷

テーマで読み解く中国の文化
440頁／3500円／２刷

名言で読み解く中国の思想家
396頁／3000円／２刷

教養としての中国古典
364頁／3000円／３刷

ミネルヴァ書房
〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町１　☎075-581-0296　宅配可／価格税別
E-mail eigyo@minervashobo.co.jp　URL http://www.minervashobo.co.jp/

表紙写真：韓国・釜山「寶水洞 本屋通り」
(보수동책방골목)
撮影：大学出版部協会

「寶水洞 本屋通り」(ポスドンチェッパンコルモッ)は、釜山の国際市場近くにある韓国有数の古書街。その起源は朝鮮戦争の時代に遡る。情緒ある裏路地に40店近くの古本屋が軒を連ね、本をうずたかく積み上げている様子は、観光名所にもなっている。

※季刊『大学出版』は、大学出版部協会の公式HPでも、PDF版を全文無料でダウンロードいただけます

大学出版122号(2020年春)
2020年4月20日発行
頒価100円(〒共)

発行所：一般社団法人 大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北1丁目14番13号
メゾン萬六403号室
TEL 03-3511-2091　FAX 03-3511-2092
E-mail：mail@ajup-net.com
URL：http://www.ajup-net.com/

表紙デザイン：阿部卓也

一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覧

■ 北海道大学出版会
〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL 011-747-2308　FAX 011-736-8605

■ 弘前大学出版会
〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学附属図書館内
TEL 0172-39-3168　FAX 0172-39-3171

■ 東北大学出版会
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL 022-214-2777　FAX 022-214-2778

■ 流通経済大学出版会
〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL 0297-60-1167　FAX 0297-60-1165

■ 聖徳大学出版会
〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL 047-365-1111　FAX 047-363-1401

■ 慶應義塾大学出版会
〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL 03-3451-3168　FAX 03-3451-3124

■ 専修大学出版局
〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3
TEL 03-3263-4230　FAX 03-3263-4288

■ 玉川大学出版部
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL 042-739-8935　FAX 042-739-8940

■ 中央大学出版部
〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL 042-674-2351　FAX 042-674-2354

■ 東京大学出版会
〒153-0041 目黒区駒場4-5-29
TEL 03-6407-1069　FAX 03-6407-1991

■ 東京電機大学出版局
〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番
TEL 03-5284-5385　FAX 03-5284-5387

■ 法政大学出版局
〒102-0073 千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎内
TEL 03-5214-5540　FAX 03-5214-5542

■ 武蔵野大学出版会
〒202-8585 西東京市新町1-1-20
武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003　FAX 042-468-3004

■ 武蔵野美術大学出版局
〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL 0422-23-0810　FAX 0422-22-8309

■ 明星大学出版部
〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL 042-591-9979　FAX 042-593-0192

■ 早稲田大学出版部
〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12
TEL 03-3203-1551　FAX 03-3207-0406

■ 関東学院大学出版会
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL 045-786-5906　FAX 045-785-9572

■ 東海大学出版部
〒259-1292 平塚市北金目4-1-1
TEL 0463-58-7811　FAX 0463-58-7833

■ 名古屋大学出版会
〒464-0814 名古屋市千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL 052-781-5027　FAX 052-781-0697

■ 名古屋外国語大学出版会
〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山57
名古屋外国語大学内
TEL 0561-75-2503　FAX 0561-75-1723

■ 三重大学出版会
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
三重大学総合研究棟Ⅱ 3階
TEL 059-232-1356　FAX 059-253-3095

■ 京都大学学術出版会
〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL 075-761-6182　FAX 075-761-6190

■ 大阪大学出版会
〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614　FAX 06-6877-1617

■ 関西大学出版部
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-0238　FAX 06-6389-5162

■ 関西学院大学出版会
〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798-53-7002　FAX 0798-53-5870

■ 広島大学出版会
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2
広島大学図書館内
TEL 082-424-6226　FAX 082-424-6211

■ 九州大学出版会
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34
九州大学産学官連携イノベーションプラザ305
TEL 092-833-9150　FAX 092-833-9160